

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	森下保育園
施設所在地	江東区森下3-14-6
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然との関わり
～ 自然に触れ様々な体験を通して更なるこどもの好奇心・探求心を広げていく～

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
園庭が狭く自然物が少ない環境であるため、虫や生物に関わる機会が少ない。また虫など自然物に触れることを好まないこどもの姿があったと感じた。
いろいろな草花や動植物等、見る、触れる、感じるなど自然をテーマに様々な体験を通して、こどもの好奇心や探求心を広げていきたい。

2. 活動スケジュール

- ①散歩先で秋の自然に触れ興味を持って自然物を集める。
- ②散歩先で収集した自然物に触れ、道具を使って（潰す、擦るなど）遊ぶ。
- ③散歩先で収集した自然物を使って想像しながらご馳走を作る。
- ④生物園で羊に餌をあげたり触れることを体験する。
- ⑤生物園での体験や感じたことを数種類の羊毛を使って表現する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
・ こども達が好奇心をもち、想像力が高まるように各回のテーマの雰囲気을大切に設定した。
・ 魅力ある教材の配置・準備・導入を行ない、出来るだけ本物の素材に触れて活動できるようにした。

森下保育園

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ①公園にある様々な自然を探し自分の興味を引く自然物を発見した。
- ②自然物をつぶし色を出して色水を作る。
- ③お皿やスプーンなど実際に食事で使用するものを使い、収集してきた自然物でご馳走を作る。
- ④生物園に行き羊の餌やりを楽しんだり、羊に触れ感触を味わう。
- ⑤生物園での体験（羊の餌やり、触れる、飼育されている蝶や魚の観察）を数種類の羊毛を使って表現した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

①宝物探しという目的で自然物を集めたので、ワクワクしている様子があった。「こんなも色あった」とイチョウの葉を集めて3色あることに気づいたり、葉の葉脈の美しさに気づいていた。拾ってきた物を入れたバッグを開け匂いをかぐ子がいて「いい匂い」「お菓子の匂いがする」など自分の思いを友達に伝えていた。②拾ってきた実をつぶしたいという子供達の思いを実現する活動を行った。「つぶしてみたらピンクから紫になったよ」と発見したり、ジュースみたいと色々な色を出すことを楽しんだ③自然物から食べ物を連想していたので自然物を使ったごちそうづくりの活動を行う。集中して取り組みそれぞれ素晴らしいごちそうができ友達同士で作品を認め合っていた。④生物園に行き自然に触れ、生き物を見るだけではなく関わり触れるなどの体験を味わう。⑤生物園に行き体験してきたことを羊毛を使って表現した。生物園の体験は子供も保育者も同じ体験をして同じイメージを共有でき楽しむことができた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・自分たちが思っていたよりも、こども達は活動に対して集中力を発揮して時間も長く取り組める姿があったことに驚いた。
- ・こどもの気持ちに寄り添っていく肯定的な言葉がけの大切さや、こどものイメージを膨らませていくゆったりとした導入の大切さに気づいた。
- ・友達同士が自分の気付きを伝え合い共感する姿がみられた
- ・こどもの探求心に触れていくことで、職員の探求心も変わってきた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	白河保育園
施設所在地	江東区白河1-7-1
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

構成遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
幼児クラスを中心にドミノや街づくり(積み木、ブロックを使用)など「つくる」ことに関心が高いことに注目した。積み木、ブロックの他に様々な素材に触れたり使用することで探究心が芽生え、「つくる」あそびがさらに広がり発展、展開できるのではないかと考え、テーマとした。

2. 活動スケジュール

第1回すくわくプログラム1,2グループ「動物園」10月22日
第1回すくわくプログラム3,4グループ「ペット屋さん」「アフリカ」10月29日
第2回すくわくプログラム1グループ「水族園」12月19日
第2回すくわくプログラム2グループ「水族園」1月17日
第2回すくわくプログラム3グループ「水族園」1月30日
第2回すくわくプログラム4グループ「水族園」2月28日

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
・こどもの声をもれなく拾えるようにビデオカメラを定点設置し、記録係も複数人で取り組んだ
・積み木…アクリル積み木(クリア、カラー)、ドミノ、レンガブロック、キューブブロック、ジュエル積み木
・軽量油粘土
・トレーシングペーパー、蛍光くれよん
・ミニドール、ビルディングボード 等

白河保育園

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

第1回の取り組みでは構造遊びをこども達でテーマを決めて1グループ4人から5人に分けて取り組んだ。積み木だけでなく画用紙などもこどものイメージをサポートしていくために用意した。第2回からは粘土を使用し、園外保育での思い出を生かした水族園を統一のテーマとして取り組んだ。よりじっくり時間を取るために1日1グループずつ進めた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

第1回目の活動では、こども達が決めたテーマに対してイメージを広げていくことが出来るように作る前のやり取りは丁寧に行った。こども達から「〇〇作りたい」のイメージを引き出して活動に向かっていけるようにしてきた。第2回からはこども達は1回すくわくを経験していることで、作りたいイメージの物を決めることが早く、より具体的なイメージを持ちながら活動に向かっている姿が見られた。最後にグループ全員の作ったものを合わせてみようと言ったときに「どうなる？どうなる？」と身乗り出してワクワクしていたKの姿から、十分に探究活動が行えていたことが感じられた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

少人数で探究活動を行うことで、今まで気が付けなかったこどもの言葉小さな気づきを知ることが出来た。こどもの主体性を伸ばしていくためにも環境を整えていくだけでなく、大人の言葉がけを工夫していくことでこどもの発想や遊びが広がっていくことを改めて知ることが出来た。環境面ではこどもの遊びや発想をさらに広げていくために十分な遊具や道具を用意したことで、一人一人がイメージを形にしてみよう、こうやったらどうなるかななどの探究心が十分に感じられた。

深川一丁目保育園

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	深川一丁目保育園
施設所在地	江東区深川1-6-15-101
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

積み木

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
園の特色は異年齢保育。日常の中でも常に親しんで遊んでいる積み木の遊びは異年齢の中でもよく見られているので、いろいろな遊び方、やってみたいことを広げていけるようにテーマとして取り上げてみました。

2. 活動スケジュール

10月24日・・・みんなで考えてみよう『積み木ってどんなもの?』
11月29日・・・新しい積み木で遊んでみよう。お友達の遊びの様子をみてみ
12月20日・・・5歳児クラス積み木遊び(ホール)
1月14日・・・園外保育『東京おもちゃ美術館』4. 5歳クラス
1月23日・・・ホールで1. 2歳児クラスが遊んでみよう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
積み木の購入、
積み木遊びの合わせて使う目的のランタンを各クラス用に購入、
ホールで映像をみられるようにプロジェクターの購入

深川一丁目保育園

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

みんなで積み木を考えよう～第1回の実践～

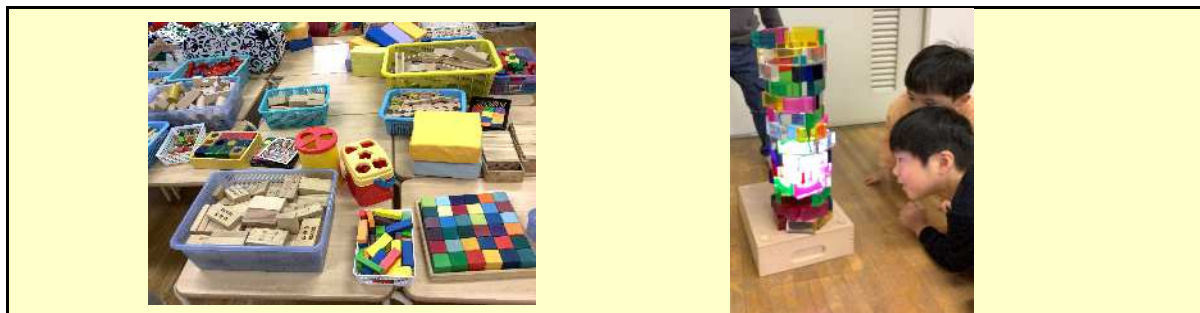
『つみきってどんなものだと思う?』とみんなで考えて見るように誘う。

ホールに集まった4, 5歳児が思い思いに園舎内を探索して『積み木』と思うものをホールに集める。たくさん集めた積み木の数々、『どんなものがつみきなんだろう』と一緒に考えてみた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

『これも積み木だね』と張り切っているいろいろなものを保育室から持ち出していく。たくさん集まった『つみき』。自信満々に集めてきたものを紹介してくれました。『木でできているからつみきだよ』『重ねられるからつみき』『つみきは固いもの』などなど自分で考え感じたことを言葉で教えてくれました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

『積み木』とは?子どものなかの認識、定義がわかりました。遊びの中で利用しているものについて考えてみるきっかけがあり、その後の積み木遊びを重ねて行く中で子どもの気持ちに寄り添えたような気持ちになりました。新しい積み木を使ってこんな楽しい遊びができ、広い空間でじっくり遊ぶという遊びの設定を学んでいけました。小さな子どもでも透明な積み木を通して見る光に興味を寄せることに気がつきました。

令和6年度 とうきょうすくわくプログラム

5 歳児ひまわり組 黒田・山本

テーマを設定する

園の特色として体育を掲げており、自分から「やってみたい！」と思うような魅力的な活動を積み重ね、自分への自信を蓄えていくことを目指している。

今回の活動では、身体の動きを獲得していくことを目指す中で、物の動きを題材に活動を展開した。

テーマ 『物の動き』

活動スケジュール

活動内容		時間／回	人数／回
活動①	紙飛行機を作る・飛ばす	6 0 分	6 人
活動②	水の動き	6 0 分	1 2 人
活動③	すくわく遠足（水の科学館）	1 0 5 分	2 2 人

活動① ～紙飛行機を作る・飛ばす～

図書館で借りた紙飛行機の絵本を見ていて「作ってみたい」という言葉から、グループでよく飛ぶ紙飛行機を考え作ってみる。

問いを考える

紙飛行機ってどうやってとぶのかな？

環境をデザインする

- 準備したもの…コピー普通用紙（A4・A3）、模造紙（厚さ2種類）
画用紙（八つ切り・四つ切）、セロテープ、工場扇、
サーキュレーター、ワイヤレスマイク

※こどもたちが紙の厚さに気が付き自由に選べるよう、大きさや厚さの違う紙を準備した。

※事前のクラスの活動の中で風や声の大きさを飛ばないかと気がついたことから、工場扇などを準備した。



探究活動を実践する

●活動内容

- ・事前に経験した活動だったため、前回の活動で気づいたことを改めて振り返った。
- ・紙飛行機の絵本をもとに、グループでどの飛行機を折るか話し合い、作ってみた。
- ・実際に飛ばしてより遠くに飛ばすためにはどうしたらよいかを考えた。

●こどもたちの様子

- ・折るときにしっかり折り目をつけたほうがよいという意見を出したり、風車をつけたらよいのかかもしれないと飛行機に付け足す。
- ・よく飛ぶ理由として、扇風機の風を使ったら、大きな声で頑張れって応援したらと楽しそうに意見を言う。

振り返りをふまえた気づき

- ・1グループ5名だと少人数過ぎて膨らまなかった。もう少し人数を増やして行くとよいと思う
- ・着地点を見すぎてしまいこどもたちの声をうまく吸い上げられることができなかった。（大人数グループ17名）
- ・事前活動で行ったことを更に追及したいということもこども達の意欲と興味が様々な発言を生み出し、道具を使用して楽しむことにつながった。

古石場保育園

活動② ～水の動きを楽しむ～

夏の水遊びの時にテラスで雨どいを使用して、金魚の浮くおもちゃを流して遊んだ。もっとやりたい！の声がありたくさんの道具を用意して楽しむ。

問いを考える

「水ってどんなもの？」

環境をデザインする

- 準備したもの…水流しセット、水遊びクリアボックス、透明バケツ、キャンピングトロッコ、ホース、ひも、養生テープ

※こどもたちが水流しセットを自由に繋げられるように広げておく

※バケツ、ホースなど流す方法を探せるように準備した。

※



探究活動を実践する

●活動内容

- ・2グループ（11名）を輪にして問いを考える。
- ・もっとやりたかった！と夏に雨どいを使用して浮き遊具を流した話をして「水の動き」を再度楽しもうと話し乳児園庭に行く。

●こどもたちの様子

- ・問いに対して「透明なもの」「流せるもの」「冷たいもの」と次々上がった。
- ・新しい遊具を使って自分達で雨どいを組み始め、「止めるものがほしい！ひもください」と提案したり。テープをもってくると傾斜を作り、木やキラキラを流してみる。「詰まっているものを勢いよく流したい」「次は遅くながしたい」など友達と試行錯誤して楽しんでいた。

振り返りをふまえた気づき

- ・全員でやるのかと思ったけど、個々に違って面白かった。
- ・グループでやろうと思ったが、個ができるようにした。
- ・人数が多いデメリットは活動から外れる子もいた。
- ・2回目はお湯を使用したため水に触れたいという活動しかなかった。
- ・今回の経験が次の活動に繋がるといい

古石場保育園

活動③ ～水の科学館で水の性質の不思議を体験する～

5歳児クラス『水の動きを楽しむ』の活動で、水の性質や楽しさに興味を広げたこどもたち。「もっと色々知りたい!」という声から4、5歳児合同で「水の科学館」へ遠足に行く計画を立てた。

問いを考える

水ってどんなもの? 性質に触れて興味を深めよう!

環境をデザインする

- 準備したもの…借り上げバス
- ※4、5歳合同で1台のバス



探究活動を実践する

●活動内容

- ・水の実験室を自由に回って、様々な実験を体験する。
- ・実験装置を試している様子を見守り、こどもたちの気づきに共感したり、疑問を一緒に考える。

●こどもたちの様子

- ・実験の説明書きが掲示してあるが、読むことなくとにかく動かしたりして試してみる。
- ・ゲームやスクリーンのクイズなど色々なコーナーを回り、友達と見つけた不思議について話をして楽しむ姿がある。

振り返りをふまえた気づき

- ・「これって何?」(疑問) → 「水が増えたり減ったりするんだ!」(発見) → 「私もわかった!じゃあこれは?」(共感と次への疑問) とたくさんの探究活動ができた。
- ・展示を見たり、クイズに挑戦する時に「水を貯めるところだよね」「黒部ダム行ったことあるよ」と自分の経験と結び付けている子もいて水を身近に感じることがわかった。



とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	塩崎保育園
施設所在地	江東区塩浜2-6-3
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など) こども達は日々沢山の色に囲まれて生活している。そんな中こども達にはそれぞれお気に入りの色がある。色といえば赤一択の子、水色等の淡い色が好きな子、虹色が大好きで何にでも虹を登場される子等色々な表現をしてくれる。また、日によってその「好き」も変化している。そこで素朴な疑問が生まれた。「うれしい気持ちってどんな色だろう」「気持ちに色はあるのかな?」と。

2. 活動スケジュール

5月 2日間	8月 3日間	11月 3日間
6月 2日間	9月 3日間	12月 3日間
7月 3日間		1月 6日間

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具) ・ダイナミックに絵画素材を使って(ロール紙・模造紙・ミツロウクレヨン・ネオンクレヨン・絵具・油性ペン・筆・OPPフィルム、蛍光ライト) ・光と色の関係を探る(スクリーン・OHP・生活用品(透過する物しない物)・カラーセロファン・ペットボトル・アクリル積み木・ハンディライト・卓上ライト・ミラーシート・トレース台等) ・戸外で好きな色を探す(ループ・手作りフレーム)
--

塩崎保育園

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・気持ちと色の関係を探る

自由画、3原色の絵の具、水族園作り（遠足の経験から）、公園で色探し、等身大の自分

- ・色と光と影の関係を探る

光、影の国

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

「今の気持ちは？」「その気持ちは何色？」と活動の導入に問いを投げかけていった。こども達の嬉しい、楽しい気持ちはとても色とりどりだった。新しい素材との出会いでこども達が必ずすることがあった。においを嗅ぐことである。じっくり見て触ってこども達はいつも全身で物事と向き合っていた。また、一番初めにミツロウクレヨンと出会ったことで、その後新しい素材との出会いがあると「これ何でできているんだろう」と疑問から素材と関わる姿がみられるようになった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

こども達は「やってみたい」と思うことが叶うと、次々と新しい「やってみたい」意欲が生まれ、こども達の好奇心無限大だと感じた。大切なのはまず「やってみたい」「試してみたい」「何でだろう？」とわくわくする事に出会えること。そしてそれが叶った時、達成感を感じたり時に壁にぶつかることがあっても、またそれが次の意欲へと繋がっていくのだと実感した。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	東雲保育園
施設所在地	江東区東雲1-8-5-101
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
3歳児が窓から差し込む光に興味を持って見たり、園庭で影の動きを楽しんだりしている姿があった。皆で共有して遊ぶ活動に取り入れていきたいと考えた。異年齢交流も行っているため、3歳児の行ったものを他クラスでも取り組んでいく。

2. 活動スケジュール

月に1回は光活動を3歳クラスで行っていく。その後異年齢交流を通して同じ活動を4.5歳でも行っていく。プロジェクターで影や光の遊具を映したり、カラー積木や遊具を使用し光を表現したり色を楽しむ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
プロジェクター、ライトテーブル、懐中電灯、透明シート、カラー積木、氷、カラートンネル、ライトキャンドル、ペンライト、ペットボトル等

4. 探究活動の実践

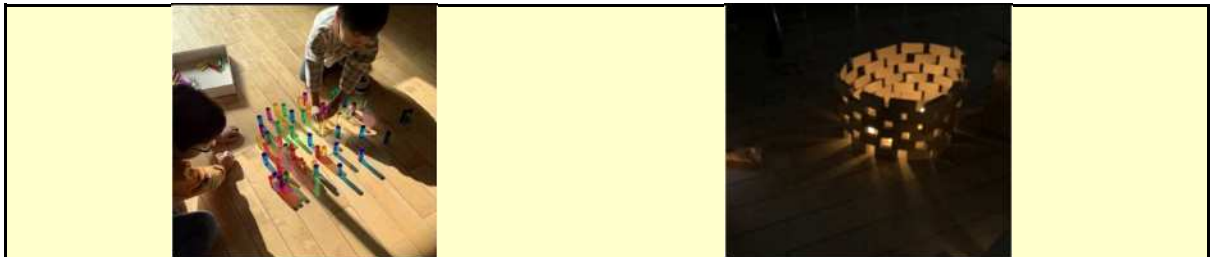
<活動の内容>

・3歳クラスを中心に活動を行う。プロジェクターを使用し自分の影や透明な遊具を光に照らしたり、懐中電灯やカラー積み木を使用し反射・色の組み合わせなどを楽しんだ。1月からは講師をお呼びして、活動の学びに活かしチームラボプラネッツにも3,4,5歳クラスで行き光の空間を体験することができた。ラボでの経験を室内で表現し、1,2歳も呼んでラボごっこも行った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・プロジェクターで自分を映したら、「あれ？目がないよ」「洋服に色がない」
- ・懐中電灯をTシャツに入れ中から光を当てた「僕の青い洋服なのに、青じゃない」
- ・部屋のおもちゃを次々ライトテーブルにのせ、「これは映らない（光を通さない）」
ままごとのジュースを映し「これくらいがいいんじゃない」
- ・積み木を組み立てライトキャンドルを入れると「光の道ができた」



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

3, 4, 5歳で体験したチームラボプラネッツの振り返りでは担当クラスのこどもの様子以外のこども達の姿も知ることができ、こども達の感じ方がそれぞれであるのだとわかった。『光』というテーマの中でも暗闇の緊張感を感じていた3歳、遊びを楽しむ中でも細かいことに気づいていた4歳、疑問に思ったことを言葉にしてそれぞれの感じ方を共有していた5歳と発達によっての違いも気づきだった。園庭での光遊びでは、銀色の紙や影について気が付いて繰り返し楽しんでいた。テーマの中でも遊びがどんどん広がってこども達から「砂をかけたらどうだろう？」と疑問に思ったことを実践することも楽しめていて、自由に発想を広げることができこども達にとっていい経験になったと思う。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	東雲第二保育園
施設所在地	江東区東雲2-4-4-103
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「異文化コミュニケーション」を育む

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
文化や言葉が違っていても相手を知ろうとする力や、さまざまな違いを受け入れようとする力、広い視野をもって交流しようとする力が芽生えるようにしていきたいと考えたのが設定理由

2. 活動スケジュール

1 1月より異文化コミュニケーションに力を入れるカリキュラムがスタート。世界共通語である英語に親しむ機会を設定。4, 5歳は毎日、英語の単語に親しむ機会を15分設定。その他クラスは、遊具、音楽などで英語に親しむ機会を設定。その他イギリスの講師は12月より毎週火曜日に来園。合計13回来園。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
そのため幼児のクラスは全クラスに大型スクリーンを設置。ホールにも設置をし、そのスクリーンを使って子どもたちと英語のダンスを楽しんだり、身体を使って英語に触れていく。
英語関係遊具(絵本、紙芝居、CD、DVD、かるた、パズル、積み木、音の出る遊具など)

東雲第二保育園

4. 探究活動の実践

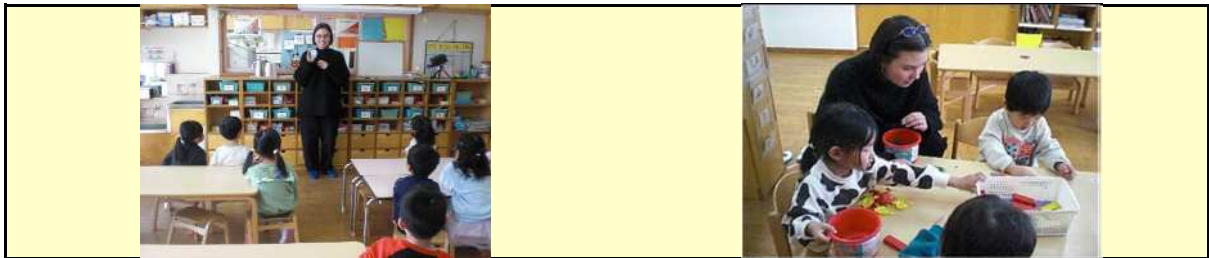
<活動の内容>

実際に外国語しか話せない方が来たらどのような反応を示すのか意欲的に関わろうとするのか、相手のことをもっと知ろうと言葉を発してみようとするのか、身振り手振りで一生懸命表現するのか。そんなこどものわくわくする好奇心を引き出して主体的に関わろうとできるように環境をデザインしていく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

日本語のしゃべることができない異文化の人を目の前にしても抵抗もなく、自分なりの関わり方で接しようとする姿がみられた。11月より4、5歳では毎日、英語の単語に親しんでいるので、その中から知っている単語を使って関わろうとする姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

講師の先生が積極的に何かを教えるというより、先生と自由にかかわる時間を多く持ったので、自主的に関わる子そうでない子の差はあった。しかし、回数を重ねるにつれて、自ら関わろうとする子が出てきて、人との関係には時間が必要であることがわかった。後半は2歳児も関わる時間を作ったが、小さい子ほど関わりのアタッチメントが多かった。今後、異文化の方に対する壁がなくなり英語にも興味をもってくれるようになると思う。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	辰巳第三保育園
施設所在地	江東区辰巳1-10-81-101
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

窓から見える風景や園庭、散歩先にも「自然」を身近に感じられる環境がたくさんある。
辰巳の豊かな自然の中で不思議に思ったり触ってみたいと感じたり、こども達が心を動かす瞬間に保育士も共感し、共に探求を楽しみ深めていきたい。

2. 活動スケジュール

実践日数は、8日間。全クラス実践報告してもらう。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

図鑑各種、科学絵本各種、飼育ケース、観賞用ルーペ、培養土、とい、画用紙など
こどもたちが興味・関心など不思議、触ってみたいと感じたり、保育者も共感し、共に探求を楽しめるようこどもと一緒に準備したり、「どうしたらいいかな」「こうしてみたらどうなるのかな」「これを使ってみたらどう？」など考えながら環境設定してきた。

辰巳第三保育園

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

自然（炭、石）「どの石がかける？」

やきいも会で使用した木材が炭になり、花壇の土に混ぜ肥料にしていたが、その炭が土の中から少し見えていて「これは何？」と手に取り、近くにいたこどもたちも手にしたことからこの活動につながった

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

「どの石がかける？」 数日前から花壇を掘っていたこどもたち。花壇の中から炭に興味を持ち、いくつか集めて手にすると黒くなった。花壇の縁をその炭こすってみたらで書けることに気づく。「魔法の石だ」とこどもたちの会話。この声を聞き保育士が「これで見てみる？」と顕微鏡を渡し炭を覗く「黒くて、線が見える」。色々な容器や袋を保育士が用意し、出し入れたり水につけて見たり。「砕いたりしてみたらどうなるのかな」「水だね」あまり興味を示さなかった。花壇のレンガに炭で色を塗ってみた。葉っぱで擦るときえることに気づくこどもたち。「他の石でもかけるかな」保育士の提案で園庭にある石探しが始まる。白色、黒色、茶色様々な石を見つけ、文字が書けるか実験。保育士が画用紙を用意し書いてみたところ、「これは書ける石だ。先生見て、葉っぱで消えたよ」紙は黒くなったが、書いた線が見えなくなりこどもは満足げな表情。「本当だ」。ちがう石では書けないものもあることを発見した。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

こどもたちの発見から、炭は手が汚れることや色が塗れることを発見。そして葉っぱで消せるということが、子どもたちからの気づきから出てきて面白いと思った。色々な容器や袋を用意してみたものの、あまり発展がなくどのような声掛けがよかったのか考えてしまった。

次に、炭以外の書ける石探しを保育士から提案したところ、こどもたちは張り切って探しに行ってくれた。その間に画用紙を用意し、「この石ならかけるかな」と持ってきた石でどうなっていくか試してみても、「書ける石」「書けない石」があることにこどもたちが気づいた。花壇で見つけた灰からの出来事ではあったが、子どもたちから心を動かす瞬間に、保育士も共感し共に探求を楽しめるような言葉かけ、働きかけを日々模索していきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	東陽保育園
施設所在地	江東区東陽3-22-1-101
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など) こどもたちの身近に存在する水をテーマにすることで、普段何気なく触れたり、遊んでいる水の変化やどうしてこうなるんだろう？どうやったら〇〇になるかな？～やってみたい！というこどもの中の探求心が芽生えるのではないかと想定した。

2. 活動スケジュール

1回2日間 合計3回計画
1日 3グループ 1回40分
1クラス6グループ(1グループ4~5人)
1回目 10/17・10/18
2回目 12/11・12/12
3回目 2/13・2/14

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具) <準備>図鑑・水にまつわる絵本・紙芝居。飼育ケース・透明カップ。スポット・スポンジ・食紅・レンゲ・ジップロック・霧吹き・水のカード作成 <環境設定>ホール使用でマットを敷く・個別の机・事前に大小の氷を作っておく・お湯

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

1回目：「水探検」園の中の「水」を探して水カードを貼って歩く。マップにシールを貼って水の場所をクラスで共有。

2回目：「水・お湯・氷の性質を知る」水とお湯と氷を用意。いろいろな道具とチェーリング入りの氷を用意。こどもは思い思いに試したり触れたりする。

3回目：「水の実験」保育者がやってみせたいろいろな実験をこどもたちがやってみたいことを試して再現してみる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「水探検」：見るもの以外経験から洗濯機やパイプという声。保育士が仕掛けたペットボトルからポット→ポットの湯気

「水・お湯。氷」：どうやったら早く氷が溶けるか、こどもによって発想が違う。友だちがやっていることを見て真似してみる姿。氷への興味→溶かしたい→お湯の活用を考える発想。お湯が冷たくなったことで「氷の力やばい！」という声があがる。

「実験」：保育者がやったことを自分でやることで、感動も自分のものにしようとする。自分の考えや予想したこととは違う→また考え、他の方法を考える姿があった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

少人数で取り組むことで、ひとり、ひとりの興味や思いを汲み取りながらじっくり遊ぶ様子を観察することができて、とても勉強になった。

同じ環境を用意しても、こどもやグループによって関わり方が全然違うというのも新しい気づきだった。身近な水ということと、いろいろ変化する素材ということで、こどもたちも実際に自分でやってみる面白さに夢中で、遊びながらもたくさん考え、予測し、考察していることが良くわかった。

テーマ「色」

〈設定理由〉 ※テーマに関するこどもの興味関心、園の特色などを

・問にあたる部分の考え方

子に何かに気づいてほしい…とか、深めてほしいとか、何に関心を示すだろうか…は予め考えておくことが大事。こども達の知りたい、やってみたいに共感していく。

文字や数字に興味のない子に向けて、文字にボンドでなぞって浮き上がらせたカードを作り、触って興味を持ったり、書いてみようとする意欲に繋げようと準備した。「なにをしているの？」とこども達も保育士の真似をしてカードやペン、ボンドで遊んでいる子のなかに、固まったボンドの上に水性ペンで塗りさらにボンドを重ねた子どもがいた。翌日乾いたボンドを見て「透明になって、色が混ざっている」と教えてくれた。

保育士はこどもの気づきをヒントにして、乾いたらはがせるようにクリアファイルを用意し、様々な発見につながるかと思い、活動を設定した。

〈活動スケジュール〉 5 歳児クラス

カードづくり 7 月4日

クリアファイルと 7月9日

しばらくボンドの飾りづくりは続いた



〈実施した活動の内容〉

※活動のために準備した素材や道具、環境の設定の写真

※活動の内容、こどもの姿、保育者との関わりなど 子の新たな一面がみえる一人一人の声を



- ① クリアファイルと水性ペンを用意する。クリアファイルに水性ペンで好きな絵を描き、その上にボンドを垂らす。
- ② 棚の上で乾かす。
→乾いているかどうか確かめるために棚の上を頻繁にのぞきにいく。「手にくっつかないよ。ぷにぷにしている」「まだ白いぷにぷにのところがあるから乾いていないね」「透明のところはかたいよ」
→翌日、こどもがすぐに棚の上を確認しにいく。「そーっとはがしてみよう」
「ねえ！それはがしたら窓に貼れるんだって！ママが言ってた」という言葉を聞き、クリアファイルからはがそうとする。きれいに取れたものもあったが、乾いていないところをめくるとファイルにボンドが残り、「あっ、まだだ」と戻す。「せんせい、ここ白のぷにぷにがあるとまだ取れないの！」と教えてくれた。
- ③ クリアファイルからはがす
→はがしたものをガラスの扉にはりにいく。「ここキラキラして宝石みたい」と日光が当たって透けているところを教えてくれた。

〈振り返りによって得られた気づき〉

- ・途中経過の「白いプニプニ」がおもしろい。少しずつの変化に気づいて大発見に繋がった。
→経過を楽しむことが探求につながる。
- ・「乾かしたい」→扇風機を使うのはよく考えたと思った
- ・はじめは保育士に倣い、線だったのが次第に面に変化していった。
- ・ガラスに貼ったことで「透ける」「きらきら」を感じとり『宝石』という表現になった。
より一層素敵なものにとらえられていた。
- ・クリアファイルは本当の透明ではない。透明な板やガラスだとどうなったのだろう。「透ける」「キラキラ」がもっと感じられるような設定や環境にするためにはどうしたらいいか？

テーマ「色」

〈設定理由〉 ※テーマに関するこどもの興味関心、園の特色などを

・問にあたる部分の考え方

子に何かに気づいてほしい…とか、深めてほしいとか、何に関心を示すだろうか…は予め考えておくことが大事。こども達の知りたい、やってみたいに共感していく。

前回の活動「ボンドの特性を活かした造形活動」から太陽光にすける現象を気づいたこどもの姿から、夏によく遊んだ色水を光に当てたら何か学びに繋がらないかと思い、活動を考えた。

透明なビニールシートの上にスポットでポタポタと水滴を垂らすと、または下から見てみるとこども達は「光や反射に気づくのか、新しい遊びや気づきになるか」

〈活動スケジュール〉 5 歳児クラス

8月8日(木)

〈実施した活動の内容〉

※活動のために準備した素材や道具、環境の設定の写真

※活動の内容、こどもの姿、保育者との関わりなど 子の新たな一面がみえる一人一人の声を拾う

《道具》

・ビニールシート、スポット、色水(コップにいれたもの)4 色赤、青、黄色、緑《

《環境》

・暑かったため、室内で行う。

・机と机を横に並べて間隔をあけ、そこに透明なビニールシートを用意した。しかし、上から見ると床の色や模様が邪魔をしてしまい、色水を垂らしたことがよくわからなかった。また、ビニールに触れただけで水滴が動いてしまい、色水が垂れてしまったため、机の上にビニールシートを敷き、机の上だけで行うことにした。

《こどもの様子》

・シートの上に水を垂らしたりながしたりすると色が混ざっていく様子を(写真①)「にじの橋になるんだよ」

・息を吹きかけると動く

・保育士がスポットで一滴ぱっくりとシートの上に落とすとこどもも真似をし始めて

(写真②)「たくさんあるとかわいい」「上から横からみるとキラキラして宝石みたい」「上からみると普通なのに」

・モザイクアートのように花を描く

亀戸保育園

- ・片づけをしようと声をかけるともう一人の担任にみせたいと言う。「冬だったら氷にしてとっておけるのに」→トレーの上に水滴を落として冷凍庫で凍らした。(写真③)翌日一緒に見てみると「かわいい」「すぐなくなっちゃった」溶けた水が混ざっていくと「変な色になっちゃった」
- ・一人の子が氷を近くににあった紙に置く→とける→透ける→蛍光灯にすかすと「白くなった」(写真④)
- 【保育士:紙に水滴を落としたらどうなる?作品として残したい】
- ・紙の上にできた!「夏だからすぐ乾くね」「乾くとギザギザする」(写真⑤)
- ・「砂の上はどうだろう?」園庭の砂(地面)に水滴を乗せてみたができなかった

①



②



③



④



⑤



〈振り返りによって得られた気づき〉

- ・こどもが誰か(担任)に見せたい、共有したいと思えることがすごい。その思いに寄り添って氷を実現しようとしたこともすごい。
- ・紙や砂など保育士が先に子どもが気づく何かがあるのではと考えて提供できたことがすごい。
- ・子どもの姿に応じて環境を用意していくことが保育士に求められていること。
- ・保育士がねらいとは違う姿を楽しんでいく、こどもの発想や姿に合わせていけたことで次々展開していった。
- ・横から見るとはこどもならでは。
- ・「スポットで垂らす」シンプルだからこそ楽しめた。興味も広がる。
- ・ほかの子に左右されず自分のやりたいことを続けるのは本当に楽しかったのだろう。

テーマ「色」

〈設定理由〉 ※テーマに関するこどもの興味関心、園の特色などを

「色っていろんな色があるんだね」「色が混ざると違う色になる」というこどもの気づきから、自分で色を混ぜたらどんな色になるのだろう？同じ好きな色でも自分だけの好きな色ができるのではないかな？と思い、好きな色を自由にすきなように使える環境を設定した。そこからどのように広がっていくか？発展していくかを見守ることにした。

〈活動スケジュール〉 3 歳児クラス

日程:10月18日(金)

活動時間:10時から 11 時20分

参加人数:10名(5名+5名)

〈実施した活動の内容〉

準備したもの:画用紙、色画用紙、絵具、水、バケツ、雑巾、スモック(Tシャツ)、筆
その他(常時設定してあるものについての制限はない)

導入:前回までの活動にて、色が混ざると変化すること、色には様々な色があることを発見し、導入として色についての発見したことを共有した。

活動:①活動の始まり

一人一つの絵具の入ったパレットを使用する。好きな画用紙などを選び、好きなように描いていく。水を多く含ませる子、パレットの上で絵具を混ぜる子と姿は様々だったが、すごい集中力だった。水を多く含んだ色は「絵具がキラキラしてるよ」と目を輝かせて表現していた。



②発展1

水を全くつけず、原色を重ね塗りする子、水を多くふくませ、同じ色のなかでも変化を楽しむ姿が見られた。やりたいこと、やってみaitことが決まり、夢中になって実験を繰り返し自分が満足するまで続けていく。「なんかすごい迫力」「同じ色なのになんで色が違うんだろう？」と自分で思考錯誤しながら、絵具や水の量を調整していた。



③発展2

「同じ赤でもなんか違うな～」と自分の納得する色を探し続ける子。全部の絵具を混ぜてみようとして試す子とやりたいことは様々だが、満足するまで探求を続けている。全部の色を混ぜ「あれ？同じ色になったね」と気づいて笑いあう姿もあった。中には洋服を脱いだまでも活動을続ける姿もあった。



〈振り返りによって得られた気づき〉

色に興味を持ち、塗ったり混ぜたりすることをととても楽しむことができた。それぞれ好きな色があるため、自分の好きな色や作りたい色になることがゴールだと思っていたが、こどもたちのゴールはずっとその先にあり、自分の作り上げたお気に入りの色が、さらにどのように変化していくのかを楽しむ姿があった。

①②の姿から、一人一人が自ら実験し、探求していることが分かった。活動中は「え？？赤が青になった？魔法使ったの？」や「きれいだね、カラフルっていうんだよ」など発見したことや気づいたことをこどもらしい知っている言葉で素直に表現していた。

様々な色画用紙や、クレヨン、サインペンなどあるなかで、色の混ざりが良い絵具と白画用紙を選んだのは、より色がはっきりするからだと分かる。

造形活動にあまり興味がない子も、造形活動というより実験に近い環境だったためか、積極的に行う姿が見られた。自由に参加し、終わりを自分で決めることで活動へのプレッシャーもなく参加できたのではと考える。

今回の活動で、色が混ざるとどんな色になるのか？水をふくむとまた違う色になることを知ることができた。今後、さらに洗濯ノリやボンド、他に色がつくものを用意し自由に使える環境を提供し、活動がどのように発展していくのかを見ていきたい。

テーマ「色」

〈設定理由〉 ※テーマに関するこどもの興味関心、園の特色などを

・問にあたる部分の考え方

子に何かに気づいてほしい…とか、深めてほしいとか、何に関心を示すだろうか…は予め考えておくことが大事。こども達の知りたい、やってみたいに共感していく。

問 紙ではない違う素材、平面ではない立体のものに色をつけたらどうなるか

今まで絵具にダイナミックに親しむことや、紙(平面)に描く・塗ること、様々な技法を経験してきた。今回、立体で紙ではないものに絵具を使ってみたらどのような気づきがあるのか。

〈活動スケジュール〉

11月22日(金) 4歳児クラス

- ・紙粘土は前日までに楽しみ、乾かす。乾いたら色を付けたいと、こども達からの声があった。
- ・午前中に、2～3人ずつ活動をする。「おしまい」はこども自身で決める。

〈実施した活動の内容〉

※活動のために準備した素材や道具、環境の設定の写真

※活動の内容、こどもの姿、保育者との関わりなど 子の新たな一面がみえる一人一人の声を拾う

- ・絵具、筆洗いバケツ、ふで、梅皿パレット、粘土板(1人1枚)
- ・パレットの中での混色はせずに、単色で色をつけていく



- ・色を分けて塗るために、筆を洗ったり、水や筆につける絵具の量を調節しようとする姿があった。
- ・「反対側も塗る」「後ろも塗れるね」と平面との違いに気づいていた。塗り進めていくうちに、凹凸や隙間(こどもは「穴」と言っていた)に気づく。
- ・紙粘土の絵具の吸収がよく、比較的早く乾くので、別の色が塗り重ねられていた。
- ・乾く前に塗り重ねると、紙粘土の上で混色された。H は、いかだをイメージしていて、赤、オレンジ、黄色を重ね「あ、茶色になってきた」と言う。

・A は、何色も塗り重ね、「混ざる!」「今度は混ざってない」「混ざらないように、もう一回ピンク」と色を重ねることを楽しむ。使用した粘土板ごとそのまま乾燥させ、使った色や重なり、筆の動きが残るように展示した。

亀戸保育園



・H は、青っぽくなった筆洗いの水に興味を持つ。その水を色をつけた紙粘土の上から垂らす。色が薄くなったり、にじんでいく様子を見て「わあー！みてみて、変わった」「ほら、みて」「青！」という。自身の大発見に興奮していた。

〈振り返りによって得られた気づき〉

- ・パレットの中で混色はしないと制限をした。単色を楽しんだり、塗り重ねることや紙粘土の上での混色につながった。また、紙粘土の吸収がよく、色が混ざらず塗り重ねができたことは、保育士にとっても素材の新たな性質が分かった。
- ・豆腐パックなど、使い捨てできて、たくさん用意できるものをパレットにすると、個々で自由に楽しめた。
- ・筆洗いの水の色に注目する姿は、想定していなかった姿だった。

テーマ「色」

〈設定理由〉 ※テーマに関するこどもの興味関心、園の特色などを

・問にあたる部分の考え方

子に何かに気づいてほしい…とか、深めてほしいとか、何に関心を示すだろうか…は予め考えておくことが大事。こども達の知りたい、やってみたいに共感していく。

以前のお花紙絵の具を作る活動で、思った色にならなかった子がいた。また、できあがった絵の具の色を楽しんではいたが、「もっとやりたい」「違うお花紙もやってみたい」という声があった。

その時は繰り返し試すことができなかったのもう一度行うことにした。

まったく同じ活動ではなく、作った絵の具を塗る場所を工夫することにした。

〈活動スケジュール〉 5歳児クラス

令和7年2月26日(水)

2月27日(木) こども自身が絵の具の乾き具合を確認する

〈実施した活動の内容〉

※活動のために準備した素材や道具、環境の設定の写真

※活動の内容、こどもの姿、保育者との関わりなど 子の新たな一面がみえる一人一人の声を

《前回と同じもの》 お花紙・洗濯のり・ミキサー

《新たに用意したもの》 筆・ヘラ・発泡スチロール・豆腐のパック・竹ひご・爪楊枝・昆虫の写真

《環境》 場所:ホール

テーブル2台、一人用シートを用意し、こども自身があそぶ場所を選べるようにした

浅羽講師も同席した

《こどもの様子》

・ミキサーの使い方がわかり自分で扱えることで、一回の絵の具作りに時間がかからなくなった。保育士を頼らず、こども自身が絵の具づくりをする。

・お花紙の色の組み合わせ方、紙の量、水や洗濯のりの量を変えながらこども自身が調節できた。

何度も繰り返し試す中で、硬さやとろみ具合の変化に気づく。(写真①)

『どろどろになっちゃった。もう少しお水入れようかな?』

『…』無言で手を動かし続ける姿も見られた。

- ・ミキサーを使わない方法を発見
豆腐パックに材料を入れ、筆で混ぜる。『混ぜるとお花紙がだんだん溶けていくんだよ！』（写真②）
- ・出来上がった絵の具が床にこぼれてしまった。『（ここにお花紙を）混ぜたらどうなるんだろう？』
絵の具の上に花紙を置き、筆で混ぜていくと『溶けた！』（写真③）
- ・出来上がったお花紙絵の具 手に付けて感触を確かめる（写真④）
『だんだんネバネバしてきた』『粘土みたいになるんだよ！』『気持ちいいから触ってみて！』
しばらく触っていると『色が変わってきた。濃くなったみたい。』
- ・出来上がった絵の具を竹串で繰り返すくいあげている。『静かにしていると濃く見えるんだよ』
長く色味を観察した後で、発泡スチロールに塗り広げていた。（写真⑤）
- ・ミキサーのテーブルですずっと絵の具づくりをする。発泡スチロールなどを進めてみたが。首を振り黙々と絵の具を作ったり混ぜたりと繰り返していた。（写真⑥）

①



②



③



④



⑤



⑥



〈振り返りによって得られた気づき〉

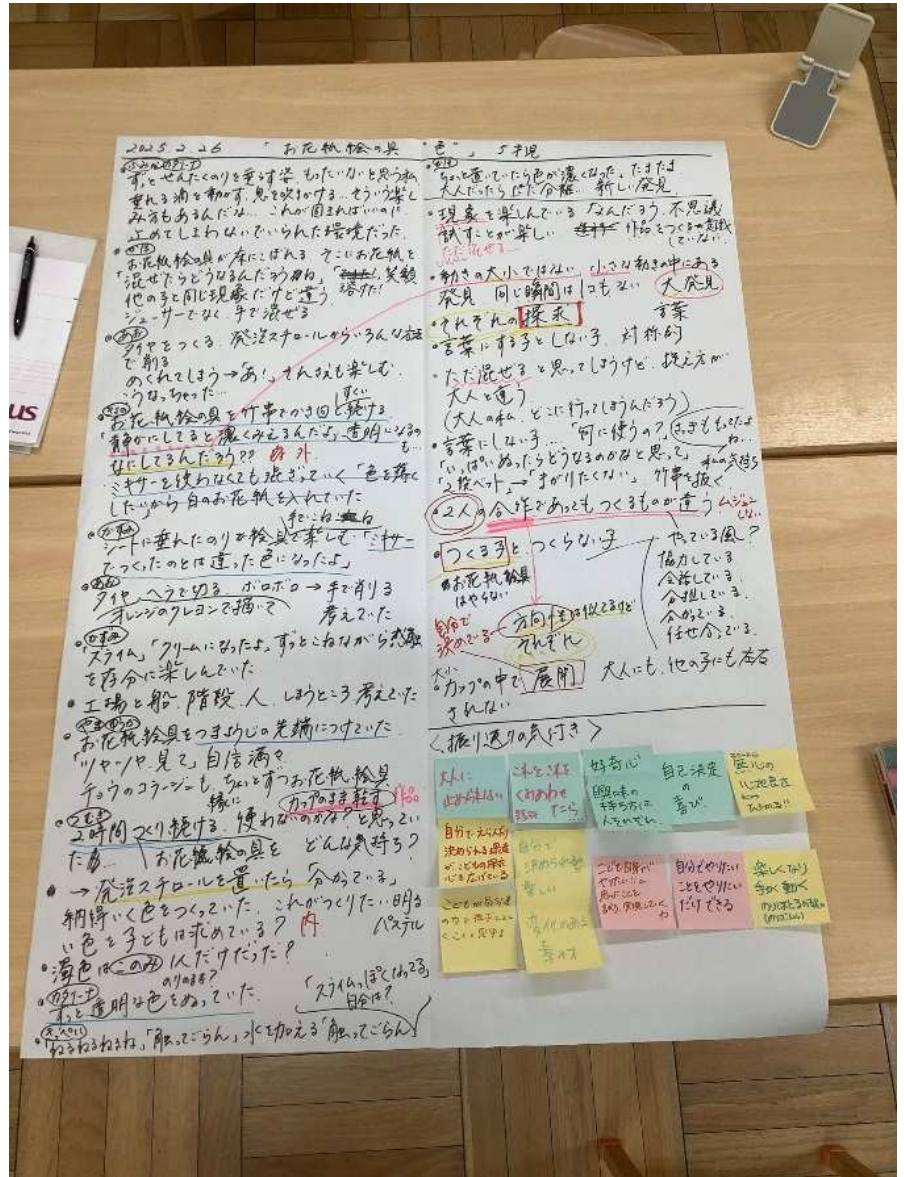
・お花紙とのりを黙々と混ぜ続ける姿は一見変化が見えないが、こども自身は常に変化を感じ取り、発見と試行を繰り返している。同じ瞬間はひとつもない。

・気づきを言葉にする子としない子がいる。人と共有したい思いと、自分だけで大切にしている思いは対照的ではあるが、表現の違いであり、それぞれの表現があって良い。

・自分で決められる喜びや
自分で納得がいくまで試す
時間が探求そのものに繋がって
いるのではないかな。

・明るい、パステル調の色を
好む子が多かった。

・洗濯のりを垂らす行動などは
「もったいない」と感じる気持ち
はやはりある。その気持ちを
言葉に出さず見守ることで、
こどもの大発見を知ることが
できる。



テーマ「色」

〈設定理由〉 ※テーマに関するこどもの興味関心、園の特色などを

最近ダンボールや空き箱など、画用紙以外の素材に興味を示し、自分達で切ったり貼ったりしてイメージを形にしようとする姿がある。そこで画用紙以外のものと絵の具を素材として出したら、こども達がどのように使うのか見てみたいと思ったため。また「透ける」素材を選定したことで、透けることの面白さに気づいたり、何か発見につながっていくといいなと思った。

〈活動スケジュール〉 3 歳児クラス

日程:2月17日(月)

活動時間:10時から 11 時20分

参加人数:4名

〈実施した活動の内容〉

準備したもの:トレーシングペーパー、クッキングシート、コーヒーフィルター

クレヨン、水性ペン、絵の具を水で薄めたもの(赤・青・黄)、絵の具、チョーク
筆、歯ブラシ、プラカップ、ハサミ、ダンボールの切れ端

導入:画用紙とトレーシングペーパーを見比べて、光や日光に当てて見せる。

光に当てた時に光が見えるか見えないかやって見せ、「透ける」ことを知らせる。

活動:①活動の始まり

好きな色の絵の具が入ったプラカップに筆や歯ブラシを入れ、トレーシングペーパーに書いていく。次第に「赤と青混ぜてみたい」「虹色になった」とトレーシングペーパーの上で重ねていき、色の混ざり合いを楽しむ。(画用紙の時と変わらない姿)



②発展1

T 児は「このコップ切ってみる」と造形棚からハサミを持ってくる。自由に切ってセロハンテープでつなぎ合わせ、プラコップを「これは電車なの」と見立てる。

Y 児は T 児の姿を見て、造形棚からハサミを持ってくる。ダンボールの切れ端も持ってきて、ダンボールとプラカップをセロハンテープでつなぎ合わせる。



③発展2

Y 児はプラカップにピンクの絵の具を入れ、水道に水を入れに行き自分で色水を作る。もう1つのプラカップにコーヒーフィルターを入れ、上から色水を注いでいく。「なんかドキドキしない？」とコーヒーフィルターに絵の具を吸わせていく。その後も自分で好きな絵の具と水を入れて色水を作り、「ここに絵の具と水を入れて出てくるか実験してるの」「何時にこの水終わるかな？」と、1時間ほど実験を楽しむ。

M 児は白色のチョークを絵の具が入ったプラカップに少しずつ順番につけていき、一番上まで色がつくと「虹色ペンになった」と嬉しそうに見せる。



〈振り返りによって得られた気づき〉

保育士の思いとして「透ける」ことの面白さに気付いてほしいという気持ちもあったが、こども達は画用紙以外の素材であってもまずは書くこと、色が混ざっていくこと興味を持ったのだなと感じた。また透けるようにという思いから、多めの水で絵の具を薄めておいたが、そうすると持ち上げて光に透かすことが難しかった。水量や活動を行う場所、素材の用意の仕方など、検討が必要だった。

②の姿から、今までは「書いて満足」「塗って満足」だったこども達が、「イメージを形にしたい」「素材と素材を組み合わせたらどうなるのか」と、興味関心が発展していることが分かった。

③の姿は、素材がトレーシングペーパーだったからこそ発展したものだと感じた。Y 児はトレーシングペーパーを触って「この紙薄いね」、K 児も「破けそう」など、画用紙とは違うということを認識していたようだ。そこでプラカップと合わせ、「水が落ちてくるのか実験してみよう」と思ったのではないかな。またただの水ではなく絵の具があったからこそ、色によって違うのか？などの面白さにつながったのではないかな。このような方法で紙の素材について知ることもしるののだなと考えさせられた。

今後の展開として、様々な紙をコーヒーフィルターのような形(プラカップに引っかかるように)にして用意しておき、どの紙が水が落ちてくるか、どのくらいの水量や時間で落ちてくるのかを実験してみたい。そうすることで素材の厚さや「透ける」ということに気づくきっかけとなっていくのではないかな。

テーマ「色」

〈設定理由〉 ※テーマに関するこどもの興味関心、園の特色などを

・問にあたる部分の考え方

子に何かに気づいてほしい…とか、深めてほしいとか、何に関心を示すだろうか…は予め考えておくことが大事。こども達の知りたい、やってみたいに共感していく。

問 異素材を組み合わせたらどのような発見があるか

以前に経験した素材の紙粘土に再度親しむ。前回からの発展で、感触の違い紙粘土を用意した。初めての素材ビンと一緒に親しんでみることで、どのような発見があるのか。親しみ、試すことで探究する

〈活動スケジュール〉 R7 年3月10日(月) 4歳児クラス

- ・事前に、家庭から空き瓶と豆腐パックを持参してもらう
- ・9:30～ホール準備
- ・10:00～11:30 一斉活動(テーブルを多く配置し少人数で活動)

〈実施した活動の内容〉

※活動のために準備した素材や道具、環境の設定の写真

※活動の内容、こどもの姿、保育者との関わりなど 子の新たな一面がみえる一人一人の声を拾う

- ・ブルーシートを敷き、テーブル5台、椅子を設定する。
- ・ホールの1画にベンチを置き、ライト(3種)を設定する。
- ・絵具にボンドを混ぜたものを、ドレッシングボトルにいれておく。
- ・ポスカ、水性ペンを用意する。
- ・紙粘土は適当な大きさに切り、テーブルに置く。(補充も用意)
- ・家庭から持参した空き瓶



・豆腐パックや空き瓶の中に絵具を塗ったり、紙粘土を詰めたりする。

・T は瓶を水性ペンで黄色く塗りつぶし、「はちみつみたい」と言う。瓶と黄色の組み合わせではちみつにイメージになったのではないかと。

・Hは瓶の中で、絵具を混色する。赤、青、最後に黒を入れる。光を通すと「宇宙だよ」と保育士に伝える。絵具が混ざりきっていない箇所を見つけ、「混ぜるスピードで色が変わる？」と発想し、何度も試していた。

・H は、ライトを二つ手にとり、白い紙に置いた瓶の作品にあてる。瓶を通す光より、その先の影に興味を持つ。光の当て方を変えながら「きゃー！先生見て」「ハート、ハート」と光と影の形を楽しんでいた。



・いくつもの豆腐パックに絵具をいれ、混色を楽しんでいたK。光を当ててみると、豆腐パックの凸凹の模様が映っていることに気づく。外側、内側、側面様々な向きを試していた。

〈振り返りによって得られた気づき〉

- ・こども達一人ひとりの自由でのびのびした発想や思いもよらない気づきがあった。
- ・様々素材を組み合わせるところから、こども達一人ひとりの探求が始まっている。
- ・こどもなりの世界やこどもなりの考えがある。
- ・様々な発見が生まれる環境や、その発見が尊重される環境の大切さを改めて感じた。

とうきょう すくわく プログラム活動報告書

施設名	亀戸第二保育園
施設所在地	江東区 亀戸7-41-16 3・4階
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

こどもにとっての公園って何

<テーマの設定理由>

亀戸第二保育園は江東区公立園で唯一屋上に園庭があり、多園の園庭のような土や木々がありません。そのため、公園に行くことで自然物と関わり探究活動を楽しんできました。そこで「こどもにとっての公園とは何か」「子供は公園で何を経験しているのか」と考え、テーマを上記のようにしました。

2. 活動スケジュール

5月31日、6月18日 3歳「こどもにとっての公園ってなーに」
 6月25日、26日 3歳「公園にある生き物や自然物でどうあそぶかな」
 7月 9日、23日 2歳「木の実で何がしたいのかな」
 8月27日、29日 1歳「土とどのように親しんでいくか」
 9月18日、20日 1歳「土と砂の感触の違いをどう楽しむか」
 10月22日、23日 2歳「土の上のどんぐりでどう遊ぶかな」
 11月7日、14日 5歳「子供から見た木の世界はどう見えているのか」
 12月6日、10日、18日 5歳 同上
 2月18日、19日 4歳「こどもは何で葉っぱが好きか」

亀戸第二保育園

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

1 歳児：1 回目ホールに透明のビニールシートを敷き、周りにプランタを並べ公園をイメージできるようにし土粘土を用意した。2 回目は透明シートの上にトロ船に入れた黒土と砂を別々に用意し竹や流木を入れた。

2 歳児：緑のシートに散歩先で見つけた木の実や枝、そして動物の人形、容器や白い布を並べる。2 回目は彫塑粘土を広げドングリを置き、遊びの様子からおけを出した。

3 歳児：1 回目はロール紙を廊下に広げ公園で拾った自然物を周りに並べ公園を意識できるようにし蜜蝋クレヨンを用意した。2 回目は屋上に透明のトンネルを置き、周りに積んでいい花のプランタを並べ飼育しているクワガタや、メダカ、ダンゴムシを用意した。

4 歳児：1 回目屋上にシートを敷き公園であつめた乾いた葉を敷き詰め葉の中にドングリを隠す。横のテーブルに段ボールの板とボンドも用意する。

5 歳児：1 回目は近くの公園に行き木の表面や葉をフロタージュする天ぷら紙と蜜蝋クレヨン。2 回目は白板。3 回目は模造紙と蜜蝋クレヨン。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

1 歳児：1 回目は土粘土に触れ感触を楽しむ。水と混ぜたり丸めて感触の変化を楽しむ。2 回目は砂と黒土の感触の違いを感じ全身で感触を楽しむ

2 歳児：1 回目は木の実をつぶしてジュースを作ったり、木の実の汁を枝につけ布に描く。2 回目は彫塑粘土を手で握ったり足で踏んだりしながらドングリと粘土をつなげる。

3 歳児：1 回目は公園で拾った自然物から自身の公園をイメージしてロール紙に描く。2 回目は自然物や生き物に触れることで自身も虫に近い存在になり楽しむ。

4 歳児：乾いた葉を掛け合ったり葉の上を走ったりして自由に楽しむ。その後葉やドングリを使い作品づくりを楽しむ。

5 歳児：1 回目散歩に行き木や葉を観察しフロタージュをする。2 回目公園での発見を言葉にして経験を共有する。3 回目公園での発見を絵にして経験を共有する。

亀戸第二保育園

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

1歳児：1回目初めての土粘土に委縮している様子もあったが、保育士と一緒に触れる中自分から触れようとする姿に変わった。水と粘土混ぜると感触が変わり丸めたり、たらいに入れるなど黙々と遊んでいた。2回目は土と砂の感触を楽しんだり、木の枝や竹の穴に土を入れていた。ふとした瞬間土と砂の感触の違いに気づき交互にさわる。土の中に入り足の裏で感触を楽しんだり、水を加えると変化を伝えるように指さしをしていた。

2歳児：ホールに敷かれたブルーシートに警戒し暫く周りを走る。保育士が実をつぶし遊ぶ姿を見ると、枝を持ちつぶし出す。布に色がつくことに気づき枝で絵を描く。容器を用意するとジュースを作り始める。2回目は彫塑粘土を握ったり、手を埋めたり足で踏んで感触を楽しんでいたが、ドングリを出すと粘土に埋めたり見つけ出すことを繰り返し楽しむ。また、枝とドングリがくっついたことから粘土が接着剤代わりになることに気づき色々なところにドングリをつける。

3歳児：最初は公園のイメージに繋がらないようだったが、自分で拾った葉をフロッタージュするうちにイメージが膨らみ、アリやアリの道をクレヨンで書く。その上を自分たちもたどって走ることでその世界に入り込んでいた。2回目はメダカに花を見せようと花を下向きにして水槽に浮かべたりクワガタを天秤にのせ大きさ比べをするなど自然物に進んで触れていた。

4歳児：最初はたくさんの葉を集めて掛け合ったり、上を歩いて葉の碎ける音を楽しんでいた。そのうち葉を集めて山を作りトンネル作りに繋がる。目に見えないところで手がつながり、驚きと共有できた喜びに繰り返し楽しむ。また葉の中から、自分のお気に入りの葉を見つけその特徴を色々な言葉で表現したり、日の光で葉の色が変わる等様々な気づきを大人に次々に伝える。お気に入りの葉や実をそれぞれの感性でこだわりを持ちながら段ボールに貼って楽しんだ。

5歳児：1回目は公園で木の表面を手で触り感触の違いに気づく姿が多い。また土の中や木の穴など目に見えない部分に興味を示す子が多い。ある子が木の皮をめくると虫の繭があり、「誰か住んでたね」というと、あわてて「ごめんなさい」と皮を戻すが、「他の木はどうなっているのかな」と他の木に向かう。2回目は公園内で見た自然について発見したことを話し合うと友達の発表に自分の経験を照らし合わせ共感したり、新たなことに気づく姿が見られた。3回目は四角い模造紙に公園の自然やイメージを絵で表現したが、描く向きを間違えたとハッとした表情になった子がいた。保育士が「木って色々なところから生えてるもんね」と話すと「うん、そうなの」と安心した表情になった。それを受け保育士が部屋の窓と同じく丸い模造紙を用意すると友達同士で描いた木の根がつながり、「公園と同じだね」と笑いイメージがつながったことを喜び合う。



亀戸第二保育園

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

1歳児：初めての環境や素材に出会うとき保育士の存在が安全基地となりこどもが自主的に向き合えるようになる。こどもの沈黙の深さは自分と物の世界を吸収している証。環境はシンプルなほうがそのものと向き合える。 2歳児：初めての環境や物に向き合うときの不安を理解し、安心して（大人の存在）ジックリ関われるよう時間を保障する。こどもたちは探求しながら遊びを見つけていく。その様子を見ながら物を足していく。あそびの終わりは思いに寄り添い楽しい経験とする。 3歳児：こどもの行動一つ一つに意味がある。細長いロール紙を使うことで上下がなく失敗もなく、みんなで描くことで会話が生まれイメージが共有された。 4歳児：葉は大胆に遊んだり、その子にとって唯一無二の存在になるなど、こどもの思い次第で幾通りもの遊びができる存在。（自然物は遊び方の決まりがないだけに、こどものイメージや遊び方で幾通りも楽しめるからこそこどもの興味が高い）保育士がこどもの声の聞き役になると、こどもは沢山の気づきを語りだす。そしてその子が意識していなかった自分の姿に気づかせることができる。 5歳児：目に見えない「分からなさ」がこどもの探求心につながる。こどもの言葉一つ一つに耳を傾け、受け止めたり、こどもにかえすことで探求が深まる。保育士や友達の気づきや心の動いた瞬間を言葉で聞くことで、イメージが広がり更なる気づきへと繋がる。体験を楽しかったで終わらせるのではなく、もう1度考えたりすることで経験になり記憶となる。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	亀戸第三保育園
施設所在地	江東区亀戸1-24-6
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など) ・「自然」を園の特色としており、日頃より自然を通して乳幼児の感性や探求心を育てることを保育の大きな柱としているため。
--

2. 活動スケジュール

活動期間	1 1月～3月
活動回数	幼児：2～3か月に1回 乳児：1月～3月の間に1回以上

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具) ビニール袋、カラー図鑑、虫メガネ、画用紙、模造紙、お花紙、シート、ブッカー、マーカーペン、ボンド、筆、絵具、器、のり、ボンド、折り紙、紙コップ、紙粘土、紙皿、タライ、木の実、葉、枝、砂、スコップ、バケツ、砂型、ストロー、ヒアルロン酸、テーブル、アクリル積み木、マグネットタイル、懐中電灯、センサリーボトル、シート等
--

亀戸第三保育園

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

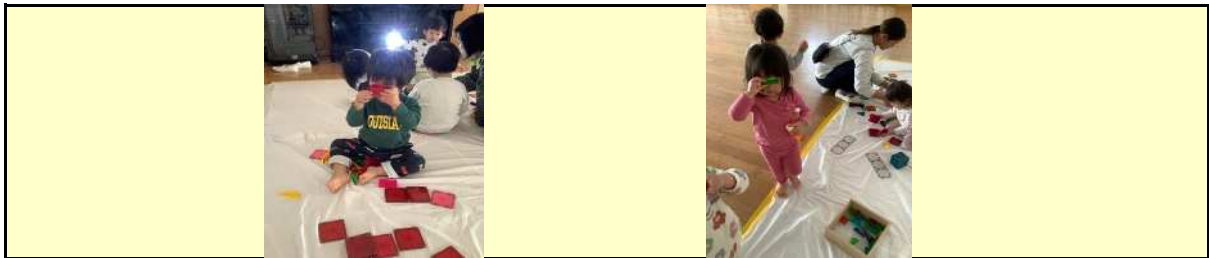
* 1歳児対象「光と影にきづく」色の影ってどうやったらできるの？

・ホール内に白布を式、アクリル積み木やマグネットタイルなどの光に反射しやすい遊具を設定し、薄暗い室内で遊具に懐中電灯を当てるとどんな風に影が見えるのか、「なんだろう」「ふしぎ」「どうやったらできる？」を体験する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・大人がやって見せると、すぐに同じよう自分からに様々な形の透明のアクリル積み木やマグネットを手にして覗いたり、保育士が作る影をみたりとを楽しんだ。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・初めてこども達におろした素材（アクリル積み木・マグネットタイル）だったので、高月齢のこども達はカラフルな光や影に興味を示していたが、それ以外は素材その物で遊ぶことを楽しむ子が多くなってしまった。次回までに、日常の保育の中で素材で遊ぶ事を十分に楽しみ、親しんだ上で、再度同じ活動に取り組みたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	わかば保育園
施設所在地	江東区大島9-7-8-101
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『自然』～こどもにとっての自然とは～

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
保育園の特色が「食育」であり、園内でもたくさんの野菜を育てている。食育に通じるものとして自然から得られるものが多いということから、テーマを「自然」と決定した。

2. 活動スケジュール

5歳児・・・10月（2日間）	11月（2日間）	計2回
3歳児・・・12月（2日間）	1月（2日間）	計2回
4歳児・・・2月（2日間）	計1回	

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
ロール紙、大きな模造紙、みつろうクレヨン、絵の具、カラーセロファン、色鉛筆、粘土
木の枝、落ち葉、どんぐり、水槽、メダカ、畑の土、種、苗、ストロー、アイスの棒
書画カメラ、ミーティングボード、自然観察ボックス、絵本など

わかば保育園

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

「自然」と聞いて、こどもたちは何を思い浮かべるか…という問いを立て、各クラスで話し合いの時間を設けたり、こどもたちからの言葉を聞いて、園庭や散歩先で自然を探したり、事前に探究活動を行った。こどもの見つけた「自然」と思うものを写真に撮りためておいたので、活動日には掲示をし、それを見ながら様々な素材を使って「自然」を自由に表現することを楽しんだ。

活動は4人～6人の小グループで行い、二日間でクラス全員が参加できるように工夫する。少人数で行うことで、個々の求めていることや疑問に思ったことに耳を傾けることができた。活動の様子を写真やメモで記録し、スライドショーを見ながら、職員全体で活動の振り返りを行った。また、活動中のこどもたちの様子から、更なる「問い」を見つけ、次の活動につなげていった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

自分が「自然」と思ったものを写真に撮る。写真に撮ったものを自由に再現しようと、絵を描いたり、落ち葉や枝、粘土やストロー、アイスの棒などを組み合わせて表現していく。こどもたちの「つなげたのに、上手くつながらない」「ここに付けたい」などの思いを聞き、やりたい形になるよう保育士が方法を提案しながら援助していった。こどもたちは、やりたい思いが伝わり出来上がると満足そうな笑顔になっていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・活動を通して、こどもたちが自由に表現することを肯定的に見ることができた。
- ・思い描いた意図やねらいではないことも、全て肯定していくことで、こどもの自由な発想や感性が出てくる。
- ・大人の声掛けが、こども同士の言葉にも影響する。
- ・こどもの気持ちを引き出すこと、言葉に耳を傾けることの大切さを改めて感じた。

大島保育園

R6年度 すくわく活動 ～一年間の取り組み～

☆自然に関わった様子の写真のあるものを時系列に乗せています。ヒトコマは赤字、ドキュメント作成は緑で表示しています

プログラム以前

- 6月10日、17日 レモンの木に幼虫発見
- 6月24日 キャベツの幼虫→図鑑で調べていく
- 7月1日 蝶々に変身したのを観察
- 7月3日 いもむしをカーテンにて発見
- 7月4日 さなぎを観察
- 7月13日 蝶が羽化
- 7月16日 アゲハチョウの旅立ち
- 7月23日 アゲハ蝶の写真を紙に貼って掲示
- 7月31日 レモンの木の苗植え
- 8月2日 園庭でバッタを捕まえる
- 8月8日 カブトムシの足を観察
- 8月21日 カブトムシの卵の発見
- 9月20日 散歩 どんぐり拾い、どんぐりの観察
- 9月30日 小学校 ビオトープを見に行く 虫探し、木の実を見つけて拾ったりする

<すくわくプログラムで備品を購入、虫や植物に積極的にかかわっていく>

- 10月7日 カブトムシの幼虫のお世話
- +11月8日 →まだやっていなかった2グループ行う
「幼虫動いている」、「幼虫にとってどんな時間なの」、「幼虫にとって寝る時間じゃない、もぐってるし」、「土いっぱい食べて筋肉もりもりになるんじゃない」
「ヒーローになるんじゃない」と友達と言葉のやり取りをする中でどんどん想像が広がっていた。
- 10月11日 わんさか広場で蝶やミミズを発見、草むらで虫探し、どんぐり拾いで図鑑で調べる
- 10月15日 散歩大島六丁目 虫取り網を持って散歩。虫取り網を掲げて追いかけて走り回ったことで逃げられる。キノコを発見、食べられるキノコとの違いに気が付き、「毒キノコだよ」というものの関心を持って観察している。
- 10月17日 食虫植物にとっても興味を持ってみて、自分の指を入れてみて挟まるとびっくりして指を引き抜いたり、虫を近づけてみたりして食べるかどうか確かめる様子があった。
苗植えをしていった。バッタをヤモリに食べさせようとケースに入れて観察。
- 10月22日 仙台堀川公園で探索遊び。前回の虫取りの反省を生かして虫取り網でたくさん虫を捕まえる(しずかに、ゆっくり、あるく)。ルーペを使って観察。
- 10月25日 チューリップの球根植え
- 10月23日 園庭で虫探し
- 11月6日 わんさか広場へ散歩。図鑑をコピー、ラミネートして同じ葉っぱ探しや見つけた虫や植物をルーペで観察。
- 11月18日 キノコの成長にびっくり
- 11月11日 ハーブに関心を持って触って嗅いでみることを楽しむ

大島保育園

- 11月13、15日 キャベツについて幼虫を発見して調べる。すぐに図鑑で調べて「モンシロチョウかな」と予想を立てていた。
- 11月26日 クリスマス制作 自然物の綿と手芸用の綿の感触を感じてみる。
その後、松ぼっくりや園庭で育った綿を使ってクリスマスツリー作りをする。
- 12月2日 落ち葉拾い(仙台堀川公園) 落ち葉を拾う中でどんなものに見えるか、どんなものが作りたいかイメージが膨らんでいく様子があった。帰園後、拾ってきたものは押し花や押し葉っぱにした。
- 12月3日 虫のいるところについて話し合い、ウェブマップ作り。これまで発見したり、関わってきた虫を振り返り、模造紙にウェブマップにしていくことでイメージがどんどん膨らんでいった。
- 12月4日 落ち葉制作。2日拾って作った押し花や押し葉で制作をする。画用紙に自分がイメージしたものを表現していく姿があった。
- 12月10、12、13日 少人数 すくわく活動「虫の世界を表現してみよう」(すくわく報告書参照)
- 12月16日 積み木遊び。自然物でできている積み木を使って自由に楽しむ。
- 12月16日 カブトムシ幼虫の土の入れ替え。
- 12月17日 『虫の世界』で表現した絵を各グループ発表する。自分がどんな世界を描いたのか堂々と発表する姿があった。
- 12月26日 菜の花の種取り。とても小さい種に対し、最初は一粒ずつ取る姿もあったが大変な作業だと気が付くと一度にたくさん収穫できる方法を友だちとアイデアを出し合い考える姿もあった。
- 2月5日 大島4丁目第2公園にて。霜柱を発見。初めてみるこどもたちは、触れてみると溶けることに気が付いたり、溶けると手に土が残ってしまうことで「汚くなった!」と言いながら不思議そうに眺めたり、枝でつついてみるなど興味を持っていた。
- 2月6日 前日に霜柱を見つけたこともあり、朝早くに園庭へ出て霜柱探しをしてみる。大興奮気味に「ビオトープが凍ってる!」と発見。持ち上げてみると薄い綺麗な氷ができていた。
また、翌日も朝は氷点下が予報されていたことから、好きな器に水をため、自分たちが凍ると思う場所に器を置き、凍るのか実験を試みた。
- 2月7日 こどもたちも期待しながら昨日仕込んだ器を見に行くが凍っておらず。「ここは暖かいのかな?」など凍らなかった理由を考える姿があった。
- 2月13、14日 カプラをはじめ、クラスやホールにある積み木を全て出して2日間通しの積み木遊びをする。
- 2月25、26日 少人数すくわく活動「自然探索とマップ作り」(すくわく報告書参照)
- 3月4日 自然物の発見。(大島4丁目第2公園) 探検ごっこを楽しんでいたところ垣根の中で大きな木の皮を発見。不思議そうに触りあったり、どこの木から取れたのか探す姿があった。
- 3月26日 大澤先生と一緒に大島五丁目公園へ散歩に行き、さまざまな植物について発見をしながら「なんていう名前?」と聞いたり、調べたりして楽しんだ。

大島保育園

すくわくプログラム活動報告

活動のテーマ	設定理由：これまでたくさんの虫に関わってきており、描いてみたいなという声が出てきていたため テーマ：虫の世界をそれぞれ自由に表現してみる
活動 スケジュール	12月10日(火)9:30~10:15 1G 4名 10:30~11:15 2G 3名 12月12(木) 10:30~11:15 3G 4名 12月13日(金)9:45~10:30 4G 4名 10:45~11:30 5G 4名
活動のために 準備した素材 や道具、環境 の設定	・透明シート ・模造紙(薄青、茶色)→床の上から後半は壁に移動 ・蜜蝋クレヨン(12色の中のピンク、群青色は除く)棒タイプとブロックタイプ、図鑑 ・世話をしているカブトムシの幼虫の入ったケース、食虫植物 ・クラスで話し合った虫のウェブマップを壁に掲示 ・はじめの2グループはクラスの部屋で行っていたが、もっと静かに過ごせる小部屋で行う
探究活動の 実績	はじめにこれまで虫と関わってきた経験や、クラスの話し合いで出てきたことをウェブマップでまとめた掲示物を見ながら一緒に振り返る。そしてどんな虫やその周りを描いていきたいのか一人ひとり発表し、本日使う大きい紙と、特別なクレヨンについて紹介する。使用するクレヨンも虫に関わっていると知らせ、何の虫から出たものを使っているのか投げかけると、より関心を持って考えていた。「蜂蜜!」との声が上がったところで、実は蜂が蜂の巣づくりで出す蠟に色の素を入れて作られていると知ると、「べたべたする」、「かたい」、匂いを嗅いで「甘い気がする、食べてみたい」、「かたい」と反応があった。それから紙に描き始めていった。描く中で、塗ったところが「つるつるしてる!」といつも使っているクレヨンとの違いに気が付いていた。それぞれイメージができていく様子があり、積極的に虫等を描き出していた。はじめそれぞれ自分の場所で小さく描く姿が見られたが、だんだんと表現が大きくなっていった。他の友達の描いているものや、つぶやきから、影響を受けて、同じような大きさ、天気、虫、家等を描くような様子もあった。5グループのうち1グループは一人が何となくあった友達との見えない仕切りを超えていろいろな場所へ描き始めたことで、他の人も別のところに描き出す様子があった。他のグループではそれぞれのテリトリーがあるようで、自分の描いていった場所を線で囲ったり、相手の絵が入ってこないように仕切りをつけたりしていた。ちょうちょには花や、てんとうむしには葉っぱ、カブトムシには木を、ダンゴムシは「土の中にいる」と虫をまず描いてからその周りについてもイメージを広げていき描く様子があった。「もうおしまい」という姿には、「このテントウムシはどこに飛んでいこうとしているのかな?」など声掛けしていくと描き出していた。また、大きく描いていく中で、塗っていくのが大変そうなときに、ブロック型のクレヨンも紹介すると、いつもと違う形のクレヨンのため一層興味を持って使って色付けをしていた。重ねて塗ると色の変化がみられ、たくさんの色で試し、「虹があるの」たくさんの虹を芋虫の横に描いていく様子もあった。また描こうとしていた虫で「どんな感じだったっけ?」と分からなくなって、「図鑑見ていい?」といった声もあったので、用意すると見ながら描き出し、それを見た他の人も、自分がイメージしていなかった別の虫を描く際に「図鑑見る」と見る様子もあった。5グループ中、4グループは図鑑を手にとって思い出したり、見本にしたり、「これ描いてみたい」と意欲につながっていた。一人は虫を描こうとしても殴り描きのようになり、「難しい」と言っていたので、「ゆっくり描いて大丈夫だよ」と伝え、ゆっくり丁寧に線を引いていったことでカブトムシを描くことができ喜んでいった。最後には、一人ひとり描いたものについて発表しあうと、「大きいね!」、「同じ虫、描いた」などと、やり取りも生まれていた。

大島保育園

振り返り

・虫が関わっている蜜蠟クレヨンを使用したことでより興味を持って使い、大きな紙を用意し友達と共有したことで刺激を受けあい、また、表現がダイナミックになり、場所と時間を保障することでじっくり取り組んでいたことから、そういった材料、場、時間の大切さを感じた。

・誰もが自分が描いてみたいと持っているものを積極的に描き出していったことからこれまでのテーマへの様々な関わりが生きていると感じた。表現でのイメージを豊かにするには豊かな経験が大切であり土台になると再認識した。今回の描画により、虫の住むポイントについて、土、花、葉っぱ、木、水など出てきたのでそれを生かしてビオトープ作りをし、今後もさらに自然に興味関心を持って関わっていきたい。今回は各グループでの描いたものの発表だったので、全体でも発表して、他のグループの虫の世界についても共有していくようにしていく。大きな紙で描く機会を他にも春、夏、秋と繰り返し行っていき、どう表現が広がっていくのかも見ていきたい。

・描画活動にて自分の描くスペースをさりげなくとっている様子が見られた。普段の生活の中で、個々のスペースの確保を大切に保障しているところが、少なからず影響していると思われる。今回の活動で友達と影響し合いながら楽しんで表現していたことから、友達と一緒に絵にとらわれず色々な共同制作（積み木など）を楽しんでいけるように経験を積み重ねていくことでどう表現が変わっていくのか見ていきたい。

・やりたくない子は出てこなかった、「～描きたい」と言って絵で表現していくというのは、これまでの豊かな経験を積んできたことや、それぞれの観察力の高さもうかがえた。じっくり描いていく様子から、干渉しすぎない保育士の距離感もよかったのではないかな。

・5グループ目に一人がどんどん他の友達のスペースに入っていき、見えない仕切りを消したようだった。他の友達も嫌がることなく受け入れていてよかったのではないかな。

・クラスでない環境、より集中できたのではないかな。

・床から縦に張ったことで天地がひっくり返ることなく、分かりやすかったのではないかな。

・図鑑を見ながら描き切ることができ、達成感が出てよかったのではないかな。

・これだけの大きな紙に描くことがなかった分、表現するのは難しさがあったのではないかなと思われたが、躊躇する姿もなく、描いていく様子から、それまで触れてきた経験が生きているのではないかなと思われた。

・描き始める前に、会話をしていくことで、どんなものを描くかイメージをそれぞれ持ってスタートしていけたのではないかな。

・各グループに絵を描くのが好きな人を入れていくなど配慮していったことで、こんな風に描くんだと刺激を受けあっていたと思う。

・それぞれどのようなイメージなのかや、何に難しさを感じているのかを少人数だったため受け取りやすく、個々に応じて対応（図鑑やブロック型のクレヨンを提供したり、描いていく方法について知らせていったり）していくことができた。

・今まで見てきたものや経験してきたことで表現ができたのだと思う。また、今は一枚の紙の中で自分の場所を見つけて描く姿から今後の更なる経験で表現がどのような形になっていくのが楽しみ。



大島保育園

すくわくプログラム活動報告

活動のテーマ	身近な自然の発見やマップ作りを楽しむ
活動 スケジュール	2月25日(火) 1G 9:30~10:00 2G 10:05~10:35 3G 10:40~11:10 2月26日(水) 4G 9:30~10:00 5G 10:05~10:35
活動のために準備 した素材や道具、 環境の設定	・公園マップ(各グループに1枚) ・ルーペ ・筆記用具 ・カメラ ・ビデオ ・公園マップ(大きいもの)
探究活動の 実績	日頃から散歩先で楽しんできた探索活動。季節の移り変わりを感じたり、発見したものを記録してマップ作りを行っていく。全てのグループに公園内で探索活動をすることを伝え始めていく。 1G：探索したい場所が決まっており、4名で目的地へ向かう。最初にたくさん落ちているどんぐりを発見。1名が上を見上げ「これどんぐりの木じゃない？」と保育者に知らせてくれる。「本当だ！」と他児も賛同し、落ちているどんぐりや木の写真を撮っていく。もう一名が「こっちにも何かあるよ」とみんなを引き寄せてそれぞれがルーペで観察する。冬の季節、ほとんどが枝であったがルーペでじっくり観察していったことで「何かついてるよ」「お花が咲くのかな?」「これはお花じゃない気がするな～」とこども同士の会話でイメージが膨らんでいき、他児にも共有されていく。その後も花壇や芝生と場所を変えていくがルーペを使うことで、一つ一つの植物をゆっくり観察し、表面の様子や触ったときの感触の違いに気が付いていく様子があった。大きな桜の木には、表面に緑や黄緑の苔のようなものがついていた。「これはなんだ～」と驚きつつも再びルーペで観察。ルーペを使うことで探求心が高まっているようだった。 2G：3名で探索活動に出発する。一人が「あっちへ行こう」と声をかけるとみんなについていく。ピンク色の花びらが落ちているのを発見。「この木じゃない?」と上を見上げ、「桜かなー」とこどもたち。「匂いはするかな?」と保育者は尋ねてみると匂いを嗅いでみる。次に花壇へ向かう。綺麗に咲いている花、気になる植物をみて写真を撮っていく。先ほど桜の花びらの匂いを嗅いだことで花壇にあった自然物も匂いを嗅いでいく姿があった。「これ保育園で嗅いだことのある匂い!」とシソの葉を発見。シソの葉だとは気が付かず、他児も集まってくる。葉が破れないよう指でこすり匂いを嗅ぐ。「オレンジ?」「ちょっとくさい」「この匂い好きだなー」と感じたことを言葉で表現し、共感していた。松の木を見つけると木によって表面の模様や感触に違いがあることを発見。ツルツル、ボコボコ、ザラザラとみんなで見出し、「本当だね」と共感し合えるグループであった。 3G：多肉植物のようなプクッと膨れた植物を見つけ「先生!これポテトみたいだね」と発見する。「どの辺がポテトに感じた?」と尋ねると茎を指差す。「本当だね!」と共感すると他児も「みたい!本当だ!ポテトだ」と楽しんでいた。他にも見つけた植物1つ1つに「これは肉食系だ!」「毛が生えた草」「ハートの葉っぱ」「食べられないキャベツ」など感じたこと、思ったことを物に例えながら探索する姿が多く盛りが上がっていた。 4G：始まってすぐ、桜の木に向かうと黄緑色の鳥(恐らくメジロ)を発見。「静かに!」と一人の子が言うと他児も鳥が旅立つまで静かに観察する。「あれは何の鳥?」「帰ったら図鑑をみてみよう」とやり取りをしていた。また、大きな穴が空いている木を見つけると「誰かいますかー」と声をかける。少し高い位置にあったため「覗いてみたい?」と保育者が尋ねると大興奮。抱き上げると静かに覗いた後、「真っ暗でみえないな～」と謎に包まれたままになったがその後も「あの穴はカブトムシが住んでいるんだよ」「冬眠する動物かなー」と想像が膨らんでい

大島保育園

	た。 5 G：たくさん落ちているどんぐりに目がいく。「まだこんなに落ちてるよ！」と喜びながらみんなでどんぐり拾いに熱がはいる。どんぐりを探しながら移動中、蟻を発見。「蟻がいる！1匹しかいないけどおうち探してるのかなー」と蟻がどこへ行くのかしばらく眺める。「おうち探してる？」「食べ物探してるんだよ」とイメージを共有しながら観察を楽しんでいた。 ・すべてのグループが探索を終えたあと、園にて他グループがどんな探索をし、どんなものを発見したのかを撮影したビデオを観ながら共有する。「こんなのあったんだー」と関心をもったり、4 Gの大きな穴が暗くて見えなかったことを聞くと「次はライト持っていくと見えるんじゃない？」と考えを提案している姿もあった。その後、グループごとに撮ってきた写真をマップに貼り付けた。
振り返り	・植物の名前がわかったり、対象物を認識している姿をみてこの一年の取り組みが積み重なっていると感じた。 ・マップ作りを続けていくことで四季の変化が感じられると思うと引き続き続けていってほしい。 ・植物、自然物に対しての愛着が育まれているからこそその今回の探索の姿だったのだと思う。 ・五感(嗅ぐ、触る)を使って自然との関わりを楽しんでいる。 ・時間をたっぷり使って楽しんでいるのが伝わってきた。 ・一年間活動してきたことで探索の楽しさを知っている。今までの経験が積み重なっている。また、発見した植物や自然物に対して「こすって匂いを嗅ぐ」ということができるのは今までの経験があるからできることであると思った。 ・思っていたより身近に自然物があるのだと知るきっかけになった。今後は探索活動をはじめ、保育や造形に生かしていけるといい。また、次年度に向けて今年1年間積み重ねてきた経験を異年齢交流を通して他クラスにも活動を広げていけるとさらに活動の幅が広がってくると思う。 ・ビデオ録画だとこどものやりとり、こどもの声を保育者がどう拾っているのかがわかりとても良い。少人数活動の良さも伝わった。こどもの探求心がみえた動画だった。引き続き、保育者も一緒に楽しんでいってほしい。

大島保育園



大島第二保育園

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	大島第二保育園
施設所在地	江東区大島4-1-6-130
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

表現

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
こどもが遊びに対する意欲を存分に楽しむ中で、
自分の気持ちを様々な方法で十分に表せる活動に取り組みたいことから。

2. 活動スケジュール

1 か月で 4 ～ 5 グループが順に実施

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
棚（飾り棚、本棚、収納棚、乾燥棚）・土・画用紙等紙類・絵具・マジック・マット・視聴覚教材・翻訳機等

大島第二保育園

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

3歳児クラス：個人持ちのスケッチブックを用意し、ペンで自由に描く

描いたイメージや色を言葉にする

4歳児クラス：絵具で画用紙に絵を描く

描いたイメージを言葉にし、さらに色の混ざりを発見する

5歳児クラス：園の砂では泥だんごができないことを見つけ、様々な土で作ってみる

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

普段、自分から発言することに消極的な子も、少人数であったり興味をもって取り組んでいるためか、「これだと固まりやすいな」「もっと水を足してみようかな」など思いを口にしてみる姿が見られた。また言葉での表現が難しい子も、友達の姿から刺激をうけたり作品を見せあい、表情などで友達同士認め合う姿も見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・保育士が楽しむであろうと予想したポイントと、実際のこどもの姿のなかでズレがあり、どのような表現方法を楽しんでいるのか振り返ることで、保育士の学びになった。またこどもの発見に驚かされた。
- ・次の活動の進め方についても、様々な職員と話す中で発見できた。
- ・すくわくを進めていた職員も気づかなかった言葉に気づかされた。

大島第三保育園

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	大島第三保育園
施設所在地	江東区大島6-1-6-130
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など) 大島第三保育園の特色が「造形」であり、日ごろから絵画・造形活動を行っている。造形活動の第一歩として乳児期には情報をインプットすることを大切にしており、2歳児クラスの子供たちはまだ製作活動には多く取り組んでいなかった。そこで、興味の高まっている造形活動とすくわくの活動をリンクさせ、探求することで情報をたくさんインプットしていけるようにした。絵の具や色水遊びに興味が高まっているため、【色】をテーマにし発展を望んだ。
--

2. 活動スケジュール

7月色水遊び 8月指絵の具 9月絵の具(筆) 10月絵の具混ぜ 1月小麦粉粘土 2月にじみ絵 3月ライトテーブル

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具) 材料：絵の具、食紅、指絵の具、小麦粉、コーヒーフィルター、画用紙などを十分量用意 環境：ライトテーブル使用時には部屋の明かりを落とすなど照度も配慮 環境構成：2歳児クラスの1クラスをすくわく用に空け、活動をしやすいようにした。

大島第三保育園

4. 探究活動の実践

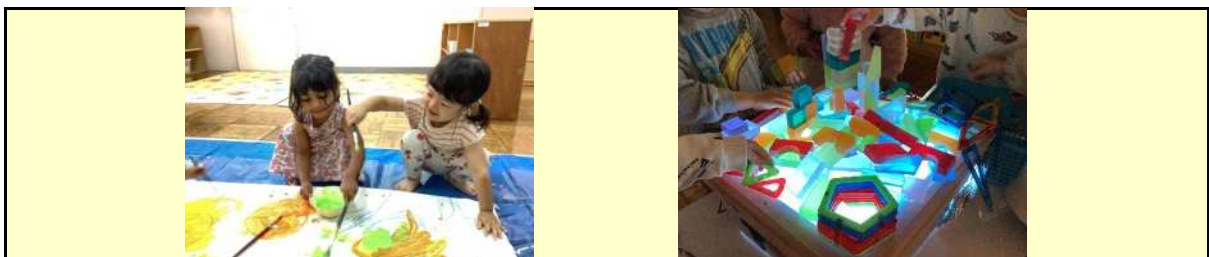
<活動の内容>

水遊びの時期に始めたこともあり、最初は色水遊びから「色」を楽しみ始めました。たらいに溜めた水に色を付けてみると「わぁきれい！」と興味を持ち、赤、青、黄の色水を混ぜてみることに挑戦。紫や緑などに変化する様子を楽しみ、日々自分の好きな色を見つけることに夢中になりました。色水で色を組み合わせることに慣れ様々な色を作れるようになってきたころ、指絵の具を使用し色水とは違う色の混ざり方に挑戦してみました。あっという間に色に変化する水の性質とは異なり、混ぜないと色が混ざらない絵の具の性質に気が付き、手のひら全体で混ぜる行為を楽しみました。手で絵の具を伸ばす感覚を楽しんだ後には、今度は筆を用いて自由に絵の具を塗ることに挑戦しました。筆では絵の具がよく伸びることやかすれ具合や水の量によって色に変化する様子に面白さを見出して夢中になって描きました。まだ「イメージした絵を描く」よりも「筆を使って塗ることが楽しい」段階のこどもたち。何度も同じところをぐりぐりと塗り紙に穴が開いてしまったことに気が付かず一心不乱になっていました。絵の具が混ざるとハッキリとした綺麗な色になることに気が付いたこどもたち。「自分の好きな色を作りたい！」と絵の具をたくさん混ぜ、思った色にならないなどの試行錯誤を繰り返しながら無事に完成。紙粘土に混ぜて好きな形にして飾りました。絵の具の感触をたくさん経験してきたので次は感触を変え小麦粉粘土を行いました。小麦粉粘土は最初クリーム色ですが、食紅を混ぜることで徐々に色変化します。自分の好きな色を選び、一生懸命コネコネ…。こね始めはマーブル状になり、たくさんこね続けるときれいに色が落ち着いてきました。マーブル状で止めて「虹色！」と喜んだり、こね続けてきれいな単色にすることを目標にするなど、それぞれの楽しさを見出しました。様々な色の変化や混ざり方に興味を持つようになり、次はにじみ絵に挑戦してみました。コーヒーフィルターを湿らせ、その上に薄めた絵の具を垂らすと、じわ〜っと色が混ざっていく様子に釘付けになり楽しさを発見した子たちは次々に絵の具を垂らし変化を楽しみました。色の組み合わせや変化に知識が増えてきてきたこともあり、「赤と青を混ぜると紫だよね」「黄色と赤ではオレンジになるよ」と色についての会話が増えました。前回に作製したにじみ絵の作品が蛍光灯や太陽光で照らされたとき、綺麗に透き通ってみえたことにワクワクレADERが反応したこどもたち。カラーセロファンの眼鏡を用意すると世界がカラフルに見え、大喜びしていました。そこからさらに一歩進展をさせライトテーブルを作製し、カラーセロファンや透明積み木を載せてみると宝石のように輝き、こどもたちの目もキラキラに。薄暗い特別な環境にもワクワクしつつ、光と色のコラボレーションから新しい発見をたくさんしました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

ライトテーブルの上にカラーセロファンや透明積み木を載せて色の変化を楽しんでいる際、「キラキラの街になったよ」「駐車場どこにする?」「この青く光っているのは僕の家ね」と透明積み木で街が完成。緑のカラーセロファンの上は森に見立て、青のカラーセロファンは海に見立てて好きな車や船を走らせるなど遊びが発展していった。



大島第三保育園

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回すくわくプログラムに初めて参加し、こどもたちの疑問に感じたことや探求したいことにじっくりと向き合った。そのことで、こどもたちのやりたいこと、気になることは何なのかがわかり「真の願い（求めていること）」に気が付いた。色水を混ぜることでは、少量の水で色の組み合わせを試すのではなく、「たくさんの水で色を組合わせてみたらどうなるのか」など、大人になると結果がわかってしまい勝手に排除してしまっていた部分にも気が付くことができ、こどもの小さな疑問、やってみたいに応えることの大切さなど初心を思い出し改めてこどもを理解することに繋がった。ぜひ今回の気づきを保育に活かしていきたい。

大島第四保育園

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	大島第四保育園
施設所在地	江東区大島8-12-20-101
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

表現

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

・制作することが好きなクラスなので、水族館へ遠足に行くことをきっかけに制限が少なく、広い場所で自由に表現したら楽しい発想が広がるのではないかと感じ設定した。

2. 活動スケジュール

・9月2回・10月3回・11月3回・12月2回・1月1回・2月3回、展覧会

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

・色々な素材を自由に使えるようにしたが、焦点がずれてきてしまう為、丁寧な制限をし環境設定を行うようにした。

・絵具、模造紙、クレヨン、光るクレヨン、段ボール、ガムテープ、カラービニール、プロジェクター、ブラックシアター、OHP、画用紙、マジック

大島第四保育園

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

「水の生き物の世界を探究する」

・水族館はどんなところ？どんな生き物がいるのかな？水族館の遠足に行く前と行った後で表現活動を行った。当初は海を作りたいとホール全体を海にしていた。そこから立体的な魚や自分たちが魚になれるような衣装を作り、暗い中でも魚が見えてのはなぜだろう？と光の探究へ移行していった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

- ・すくわく活動の日を楽しみにする姿がみられるようになった。
- ・対象クラスは保護者会で活動内容を伝え、保護者からは良い取り組みだと思うので、是非来年も行っていきたいと意見があった。保護者会後こども達が魚になり、水族館を保護者に案内した。
- ・対象クラス以外の保護者にも降園時間帯水族館を解放し観覧してもらった。4歳でもこんなに素敵なものが作れるのですねと驚いていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・こども達が楽しんで行っている。
- ・自由の中でも丁寧な制限が必要。
- ・こども達の発想やひらめきを認め満足できると次のアイディアややりたい事が次々広がっていく。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	北砂保育園
施設所在地	江東区北砂1-1-4-101
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水ってなんだろう

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
身の回りのものから水のイメージを探し、「好奇心を持つ」「五感を使う」「表現する」をプログラムに取り入れアートのアプローチからの探究活動を行うため

2. 活動スケジュール

10月9日 3歳児クラス「水って何だろう」様々な設定で水を見て考えてみる
10月11日 4歳児クラス //

10月15日 5歳児クラス //

11月1日 3.4.5歳児クラス「水をみつける」
11月7日 3.4.5歳児クラス「東京都現代美術館にて五感を使った体験をする」
11月22日 3.4.5歳児クラス「水の美術館」

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
①ホールにて水を360度から観察できる設定(巧技台やウレタン積み木の上に水の入ったコップを載せて上下、左右、斜め等観察できるようにした。
②ガラスの瓶を一人ずつ用意して園庭で水を収集した。
③借り上げバスで東京都現代美術館へ訪問。
④それぞれの集めた「水」をホールに展示し「水の美術館」を準備した。

4. 探究活動の実践

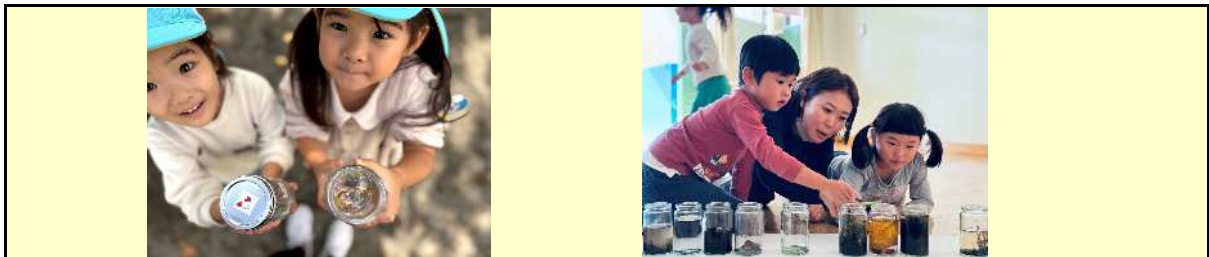
<活動の内容>

- ①「水って何だろう？」の問いかけの後、様々な設定で水を観察した。
- ②園庭で一人一人がガラスの瓶に水をイメージして収集した。
- ③東京都現代美術館への訪問では少人数で五感を使った経験をした。
- ④こども達がそれぞれに集めた「水」をホールに展示し少人数で「水の美術館」を観察した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）こども達のつぶやきや発見から好奇心を持つ姿が見られた。

- ①水に関するイメージがたくさん出たあとにコップに入っている水を下から見たり、水のおい、コップをたたいて音を聞く、水の中に指を入れて水の動きを見るなどの姿を肯定的に受け止め共感するようにした。
- ②自分の「水」探しはそれぞれがイメージしたもの砂や葉、虫、水などを瓶につめて友達や大人に見せたりしていた。海などをイメージしたりしている子もいた。
- ③東京都現代美術館をグループごとに見て回り水を意識した探索を楽しむ。水が光に反射する様子に気が付き動きをよく観察する。作品を様々なものに見立ててそれぞれのイメージを伝え合う姿が見られた。
- ④水の美術館では自分の作品を探し、他児のものと比べて楽しんだり様々な角度から観察する様子や匂いの違いに気づき言葉にしていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

「水を見つける」の中で、こども達がガラスの瓶に水を集めることを繰り返すうちに新たな発見があり、見守る大切さを感じた。愛着を感じた自分の作品を大切にしながら保育士も一緒に行いながら正解を見せるのではなく「なぜ、どこから、どうやって」など考えるきっかけを作れた。また、わくわくする経験はもっと知りたいという好奇心へとつながることを感じた。

小名木川第二保育園

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	小名木川第二保育園
施設所在地	江東区北砂5-20-3-101
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

園庭

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・こどもたちは、園庭で遊んでいる時に、自然・虫・砂場・ままごとなどその時に声や会話などたくさんの探求がみられることで世界を知ってみたい。
- ・こどもから見える園庭とは、どうなのか。

2. 活動スケジュール

9月 テーマ決める
10、11月 小グループで4グループを作り実践
(10月17日、10月29日、11月5日、11月13日)
11月14日 振り返り
1月7日 全クラスの実践と全職員で振り返りをする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

ロール紙・蜜ろう・スズランテープ・太鼓橋

小名木川第二保育園

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

1回目の活動内容は、保育士の「どんな園庭で遊びたいか」という問いから、イメージを広げそのイメージを言葉や絵を描くことで表現していった。こども達の描いた絵はカラフルで様々な色を使って表現することを楽しんでいた。カラフルな園庭ってどんな園庭なのか聞いてみたくなった。するとカラフルのイメージはこども達の中で“虹”と思っている子が多かった。そのイメージを具体的にするために太鼓橋を虹に変えてみる活動を決めた。

材料はスズランテープを用意して、こども達が自由に太鼓橋につけていく。こどもたちのイメージが広がってきたら、こどもたちの言葉を聞き、材料を追加していった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

こどもの声を聴いてみました。はじめにこどもから見える園庭とは、どうなのか。

保育士の「どんな園庭で遊びたいか」という問いから、イメージを広げそのイメージを言葉や絵を描くことで表現していったこども達の描いた絵は、カラフルで様々な色を使って表現することを楽しんでいた。カラフルな園庭ってどんな園庭なのか聞いてみたくなった。するとカラフルのイメージはこども達の中で“虹”と思っている子が多かった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回はこども達のイメージを形にできるように太鼓橋を虹に変えていった。しっかりと虹のイメージを持ち取り組んでいる子たちは“どうしたら虹になっていくか”を考えながら取り組んでいる姿が見られた。保育士もその姿を大切にしてくども達にどうしていきたいのかを聞いていきながら進めていた。完成していくにつれてこども達も嬉しそうで、イメージが形になっていくことがこんなにも楽しいことなのだということを、こども達の姿を見て強く実感した。こども達が主体となり進めていき、最後はぶら下がったりブランコ遊びに発展して、探究していました。少人数で行うことで保育者から見えているこどもが一人ひとり違った面を見ることができた。肯定的なことばをかけることでのびのびしていることがわかった。保育士がわくわくする気持ちを持つことでこどもとの共感が今以上持てた。

とうきょう すくわく プログラム活動報告書

施設名	亀高第二保育園
施設所在地	江東区北砂5-20-10-101
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

砂場でこども達は何を学んでいるか

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

亀高第二保育園には乳児用と幼児用に二つの砂場がある。いつでも自由に遊べる環境ではあるものの、作ったものを壊してしまったり、砂場から砂を運び別の場所で遊んでいる子などに対して、壊したものを作り直すよう促したり「砂は持っていないで、砂場で遊ぼうね。」といった砂場遊びのルールはこうあるべきだという固定観念に縛られている保育士の姿が見られる。又、砂場は大人から離れていても程なく遊べる安全な遊び場所として大人側が砂場遊びに対しての意識を十分に向けることが少ないのではないかといった疑問も生じた。この環境を生かし、もっと主体的に砂場遊びができる環境を作ることが大切であり、亀高第二保育園の課題であると考えた。

砂場遊びを充実させることにより想定される育ちの効果を様々な角度からアプローチし、検証することで砂場の存在意義を学び、こどもにとって魅力がありワクワクする砂場遊びを提供していきたい。

亀高第二保育園

2. 活動スケジュール

*PT打ち合わせ（9月に3回実施）

令和6年9月振り返り

「砂場遊びについて考えや視点を共有する」

*PT打ち合わせ（砂場遊び振り返り用紙作成）

・砂場用遊具購入

令和6年10月・砂場遊び（乳幼児各クラス）適宜活動後振り返り用紙に記入。（10月に1回実施）

・砂場用必要物品購入

実践①「新しい砂場遊具を使ってみよう」砂場の事例読み取り

実践②「砂場に工事現場を作ってみよう」砂場の事例読み取り

*PT打ち合わせ（用紙まとめ、考察）下旬

→職員共有（意見交換）11月上旬

令和6年11月・砂場遊び（乳幼児各クラス）適宜活動後振り返り用紙に記入。（11月に2回実施）

*PT打ち合わせ（用紙まとめ、考察）下旬

→職員共有（意見交換）12月上旬

・講師助言（オンライン）→職員共有 *笠間先生

・砂場用必要物品購入

令和6年12月・砂場遊び（乳幼児各クラス）適宜活動後振り返り用紙に記入。

→職員共有（意見交換）1月上旬、

・園内研修 講師助言→職員共有

・砂場用必要物品購入

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

・砂場の砂を購入

乳児砂場に新しく購入した砂を入れる。幼児砂場には従来使用していた砂を残した。

新しい砂に存分に触れられるように、また、従来の砂との比較ができるように分けて設定した。

・砂場遊具を購入

笠間講師が勧めるサンドアートが楽しめる砂場遊具を導入した。土台（大・小）、コテ（大・小）、スプーン、バケツ、シャベル。

・砂場遊具を入れるワゴンを購入

こども達がいやすい、片づけやすいように大きめの収納ワゴンを設置した。

亀高第二保育園

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

3歳児クラス 「新しい砂場遊具を使ってお城を作ってみよう」
新しく購入した砂場遊具を使い、お城作り（サンドアート）にチャレンジする

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）
保育士と遊んだことを再現しようとAが砂を掘り始めた。こどもが自分で再現しようとしていたので、声掛けを少なくし、上手いかないところのみ声かけをし見守っていくことにした。ジョーロに水を入れて穴に流している。水道でジョーロの水があふれることも気にせず水を勢いよく入れてると、水が満杯に入ったジョーロを運ぼうとすると重くて持てず、ジョーロが揺れて水があふれこぼれた。その後は水の流れをよく見てあふれる前に止めていた。しばらく水を入れると、「これつけたいんだよ。」と雨どいを持ってくる。それだけでは届かず、円形の筒も持ってくる。穴まで届いたが水を流すと、「水がながれないんだよ」と水が流れていないことに気づく。そばでみていたBが「ここがもれているよ」とBが気づく。すかさず、Aが四角い型を雨どいの下に入れる。「水が来た!」と喜ぶ。「もっと長くしたいんだよ」と追加したが、また水がもれてしまう。バケツなどを使い、角度を試しながら、上手く水が流れ大歓声。Cもその場面を静かにみて喜んでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

保育士がいなければ閑散としていた砂場にこども達の賑やかな声が毎日聞こえるようになった。砂場で遊んでいる中で身体的、精神的に育つことをこどもの実際の姿から読み取ることでそこに関わる保育士自身も驚きや発見があった。砂場をテーマにこどもの育ち、砂の質、砂場遊具、遊び方を講師に助言をもらい、活動と振り返りを実施をすることで、こどもの砂場遊びを通しての気づきや発見をする、わくわくする体験につなげることができた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	東砂保育園
施設所在地	江東区東砂2-13-2-101
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

構造遊び（積み木・木育など）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
保育園には構造遊びの遊具は様々あるが、ブロックやマグネットなど決まったもので遊ぶ姿が多く、木製遊具や保育者が使ってほしい積み木があるが、並べる・積むなど遊びの広がりがみられない。今回環境設定を工夫したり、いろいろな種類の遊具を準備し、こどもたちの発想力や自由表現、考える力等こども自身が主体的に遊びを作り出し、ワクワク感を引き出していきたい。

2. 活動スケジュール

・すでに実施をしている2園に全員が見学に行きそこから、感じたことや自分の園でできることなど話し合った。
・とりあえずどんなことか、全クラスが実施・記録を取り。振り返りを行っていくことにした。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
・木製の遊具を揃えていく。今の園に無い物・今ある積み木の増量・乳児用の木製遊具など職員にアンケートを実施し購入していった。（木の玉を30個・白木の板のみを20枚・石30個・木の人形・丸太の切ったものなど）

東砂保育園

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・毎月全クラスがすくわく活動に取り組む（回数は縛りなし）
- ・各クラスにある積み木や使用したい遊具をホールに準備し、こどもたちが使いたいものを自由に手に取れるよう設定した。
- ・乳児（40分）も幼児（1時間）で1回の参加人数は乳児も幼児も3～4人。メンバー構成はクラス担任が決定し進めた。また固定のメンバーではなく、
振り返りの中で次回はこの子とこの子等、考えて決定していた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- （活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）
- ・極力保育者は声をかけず、こどもからの言葉やこども同士のやり取りを引き出しでいけるよう心がけていった。
- ・メンバー構成にもよるが、こども同士で1つのもの（お城、〇〇屋など）を作ったり、いつも目にしている遊具だが面白い使い方を考えたりしている姿が多く見られた。
- ・少人数だから、小さいながらも自分の思いや意見が言える子が多かったように思う。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・それらの様子は副園長や他クラスの職員がビデオに撮り、見返しながら振り返りをおこなっていった。
- ・乳児クラスはホールが広すぎて、逆に落ち着かない姿が見られたので、遊具や設定だけでなく、空間の大きさも配慮が必要。
- ・ゴザやシートを敷いたが、床面のみの方が積み木が目立ちよかった。
- ・保育者の声の音量や回数などを考え、共感の言葉を多くかけていくよう意識した。
- ・回を重ねていくと、1時間（幼児クラス）40分（乳児クラス）の設定でもっと遊びたいとの声が多く、終わらせるタイミングが難しかった。
- ・少人数だと、使いたい積み木や遊具をたくさん使え、満足そうにしている姿が見られた。
- ・積み木や木製遊具、木にまつわる遊びだけと捉えがちだが、「音」「リズム」などにも注目していた。構造あそびから様々なところへのアプローチが、こどもによってはあることがわかった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	東砂第二保育園
施設所在地	江東区東砂2-6-4-101
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

造形（4、5歳児クラス）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など） 幼児クラス（4、5歳）で自由製作（空き箱、牛乳パックなどを利用して）の活動が盛んに行われ、興味が深まっていたため。 特色の異年齢の関わりの中でも、4、5歳クラスの間でお互いの製作物や製作過程に刺激を受けていたため。

2. 活動スケジュール

10月…牛乳パックを使った製作① 11月…牛乳パックを使った製作②(牛乳パックをいろいろな形に切り、部品にしてみる) 12月…切る（ハサミ、ピンキングばさみ、シュレッターなどを使って） 1月…塗る①（蜜蝋クレヨン） 2月…塗る②（蜜蝋クレヨンを使ってフロッターージュ）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具） 【環境設定】 4～6人の少人数のグループを作り、こどもたちの興味関心から素材や環境設定など活動内容について話し合いホールや保育室、園庭、公園などで活動を行った。一人一人がじっくりと楽しめるよう、空間や材料、道具などを工夫していった。 【素材・道具】 牛乳パックの素材を活かした製作活動…色画用紙、紙テープ、ガムテープ、クラフトテープ、スズランテープ、紙コップ、ストロー、油性ペン、ハサミ 切る、貼る、塗るなどに必要な教材…蜜蝋クレヨン、大きいロール紙、うつし紙など 欲しい材料がまとめて置ける造形ワゴンなどを用意した

東砂第二保育園

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

牛乳パックを使った製作…イメージを形にする過程において、材料や道具などの特性を知り、使い方を学んでいく姿が見られた。材料を好きなだけ使うことができることで、製作への意欲が高まっていた。切る…様々な素材の紙を用意し、ハサミ、ギザギザばさみ、ハンドシュレッター、手などを使い「切る」を楽しむ。切る物によって形が変化していく様子に興味を持ち、切る行為そのものを楽しむ子もいた。

塗る（蜜蝋クレヨン）…四角い蜜蝋クレヨンを使い、「描く」「塗る」を楽しむ。色を重ね、混ざる様子を発見したり、経験画などを描いたりしていた。こすり出しが始まると、皆夢中になり様々なものを試していた。活動が室内からテラス、園庭、公園へと広がり、こども目線で保育者には思いも寄らない素材の物のこすり出しを楽しんでいた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・こども達が制限なく思い切り造形活動を行えるよう、材料を多く用意した。特に牛乳パックの山には皆大喜びで、一人で何個も使い大きな作品を作る子もいた。

・切る、貼るなどの中で難しい行程ははじめは保育者と一緒に行っていたが、自分でやってみたい、できるようになりたいという気持ちが芽生え、たくさんの工夫が見られた。

・牛乳パックを使った製作の2回目は、1回目の振り返りを活かし、作ったものを掲示した。皆に見てもらったことで、自信になりすくわくプログラム以外の活動にもつながった。

・はじめは4, 5歳合同での活動だったが、保育者もこどもも信頼関係のある中で行うことで、自己を発揮できる場面を多く見ることで、活動によってはクラス単位で行った。

・シュレッターを使い、切ることに夢中になる子が多数いた。素材により、切る際の音の違いに気づき、保育者に伝え、同じ音を探しに行く場面もあった。

・ギザバサミ、波バサミなどで切った形から、イメージを膨らませ、貼り絵をする子もいた。

・シュレッターで切った、細長い紙をビニールに入れ、大事に持ち帰る子もいた。

・蜜蝋クレヨンでの活動では、こどもが特性に気づき色を重ねたり、こすり出しをする姿を予想したが、日ごろから使用するクレヨンのように、絵を描き始める子が多かった。保育者がやってみることで、その楽しさに気づきいろいろな素材を試してみる姿が見られた。

・室内では遊具や家具、床などありとあらゆるものの形を写しては、こども同士で見せ合ったり、保育者に見せに来る姿が見られた。

・2回目のこすり出しでは、室内から園庭や公園に活動を広げていった。友だちと一緒にいき、共有することで、同じことを何度やっても楽しく、繰り返し楽しむ姿が見られた。

・木の木目をこすり出し、「木の響きが出ている」とつぶやく。

・園庭のフェンスをこすり出す。1回では終わらせず、ずらしながら格子状を作り「牢屋みたい」とつぶやく。保育者も、「ほんとだね。〇〇みたいだね」と共感することで、「私ってこんなことに気づけるんだ」という嬉しさにつながっている。

東砂第二保育園



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・すくわくの活動以前から、自由製作を活発に行っていた流れがあったので、「牛乳パック」や「切る」というテーマの中で、準備した色々な素材を自分のイメージの中で使い、“こうしてみたい”“作ってみたい”“使ってみたい”等のそれぞれの気持ちを感じることができた。
- ・少人数での活動の中で、大人が見守り援助をしたことで、それぞれの主体性をより受け止められたと思う。
- ・その場にはいない担任にも、できたものを見せたい気持ちなど、普段の信頼関係が気持ちの基盤になっているのがよくわかった。受け止めてもらった安定した気持ちが軸となり、より楽しい活動へ、こどもたち自身が展開していくことが見ていて感じられた。

東砂第四保育園

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	東砂第四保育園
施設所在地	江東区東砂7-17-35-101
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

- ①表現 心の開放～スライムあそびからの心の開放～
- ②色

※年度内にて、テーマを変更しました。

<テーマの設定理由>

- (テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
- ①絵を描く際「気に入らない」「間違えた」「〇〇に見えない」など自分の作品に自信を持ってないことの姿が気になる。こどもが心を解放しのびのびと自分の表現を楽しむことができるようになってほしい。
 - ②色からこどもは何を考え捉えていくのか、こどもの思いや考えを知りたい。

2. 活動スケジュール

5歳児 R6年12月／R7年1月
4歳児 R7年2月／3月
1歳児、2歳児、3歳児、4歳児 R7年12月

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- (活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
- ①模造紙、ロール紙を壁面と床3メートル一面に貼る。タライ、洗面器、絵の具、水、泡だて器、刷毛、筆を用意し、自由に使えるようにした。
 - ②自然物：みかんの木、切り株、落ち葉、穴、木の実、ダンゴムシ等
園前の団地の庭での探索

東砂第四保育園

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ① 5歳児：12月 大きなキャンパスに絵の具や様々な用具を使っの表現を楽しむ／1月 マーブルリング技法を楽しむ。偶然できた模様から想像すること楽しむ。
- ③ 4歳児：2月／3月「冬はどんな色？」身の回りの自然を探しに戸外へ出掛けた。
- ④ 3歳児：12月 「お花の色はどんな色？」から大きな画用紙と絵の具で表現した。赤、青、黄、白の4色で色を作ることを楽しんだ。
- ⑤ 2歳児：12月 大きな画用紙でクレヨンを使っの自由画を楽しむ。色を塗り重ねてみたりと、色の変化を楽しんだ。
- ⑥ 1歳児：12月 模造紙に絵の具のタンポを楽しむ。ついた模様から、「りんご」「赤」等と言って喜ぶ姿があった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

5歳児：大きなキャンパスに絵の具での表現を楽しむ。全身で色をつけ、色が混ざり合う中で、夕暮れやおばけの色、強い色や優しい色を想像し表現していく。色の混色から様々は色を作り出し表現する探求が見られた。

4歳児：戸外に行き目には見えない自然物の色を探索しにいった。冷たい風を感じ「寒い！これは白だ！」「寒いのは水色だよ」などの表現があった。こどもたちの素直な言葉を保育士が「なんでかな」と追及する中で更に、「この木はね…」と探求する姿があった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・見つけたものをどのように表現するのか、大人にとっては本来は色がないものに対して、こどもは色を捉えて表現することができる。
- ・一人ひとりのこどもの言葉や行動に注目することで、こどもが目の前のことをどのように捉え考えているのかが見えた。こどもの表現や考えを保育士がそのまま受けとめて、さらに興味がわいたり考えたりするきっかけを作ることで、よりこどもの探求につながっていく。大人は固定概念があるが、こどもは、感じるがままに素直にそのものを捉えている。

南砂第一保育園

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	南砂第一保育園
施設所在地	江東区南砂4-4-1-102
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然との関わり

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

保育園の近くに仙台堀川公園があり、自然が多い。

こども達の身近に木、池、虫などがあり自然物に触れる機会も多いため、「これはなんだろう」と疑問に思ったり、拾い集めたりという姿が多く見られていたため設定理由とした。

2. 活動スケジュール

【4歳児】10月1～2日 「砂・泥遊び」計3回

【1歳児】10月16日 「雨どいを使って水を流してみよう」計2回

【2歳児】10月22日 「水遊び(砂・綿・小麦粉)」計3回

【3歳児】10月29日 「雨の日探検」計3回

【5歳児】11月25日 「葉っぱを見てみよう」計3回

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

【4歳児】ポリタンク(水)・砂場遊具

【1歳児】雨どい・雨どいのコーナージョイント・プラカップ・ペットボトル・タライ
ビールケース・発泡スチロール

【2歳児】タライ・綿・小麦粉・砂・食紅

【3歳児】カラーポリ袋で作ったカップ・ビニールシート

【5歳児】ビニール袋・顕微鏡・虫眼鏡・画用紙・クレヨン・セロハンテープ・ボンド

南砂第一保育園

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・水や雨と関わる遊びー雨どいに水を流したり、水の流れを追ったり、水の流れに触れ関心を持ち探求をした。
- ・水と砂（泥）ー手や素足で砂や泥の感触に触れて楽しみ、砂が水を含んだ際の性質の変化や事象の不思議さ、驚き、面白さなどについて探求した。
- ・散歩先や園庭での自然物との関わりー落ち葉を観察し、顕微鏡や虫眼鏡で見えるものは何か、葉を使って表現し探求した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- （活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）【4歳児】の活動より
- ・素足で砂場に入ると「わくわくする」「きもちいい」「のみこまれそう」など感触を確かめながら踏む姿が見られた。
 - ・湿っている所、乾いている所で温度差に気づき、「つめたい」「ここはあったかい」「おんせんみたい」と肌から伝わる温度を発見していた。足踏みをして「かちかちになった」「みんなでふもう」と提案する様子もあった。
 - ・砂の塊を見つけ「すなのいしだよ」と発想
 - ・「水を入れたらどうなるかな？」の問いに穴を掘り、水を流し入れ「トロトロになっちゃったからだんごにならない」、「しろいすなとぬれたすな、あれこれまぜるとかたまるよ」と団子を作り並べていた。団子の大きさで「こっちはおいしいね」と感じていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- 担任の気づき 【4歳児】より
 - ・砂の感触の気持ちよさを口にする子がほとんどで、楽しみや期待感を持って参加していた様子が見られた。自ら関わりを持ち、肌から感じとることができる砂の感触は心地よかったようである。
 - ・砂の場所によって温度の違いがあることに気づき、踏むことで砂が固まっていく様子を発見し協力して地固めを楽しんでいた。水を加えることで砂の性質に変化がみられることを知り、泥団子では含む水の量によって固まることに気づいていた。形や水を含む泥の重さにも触れていた。
- 園から
 - ・幼児クラスは人数が増えるので個々の「声」がなかなかきけないが、この機会によく聞こえた。楽しみや嬉しそうな顔、生き生きしていた。
 - ・すぐ道具を使いたがるが、なくても楽しく遊べると分かったのでは？ 普段の遊びでもよい、子のつぶやきをたくさん拾えたと思う。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	南砂第三保育園
施設所在地	江東区南砂2-3-3-102
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

回る
回る物はある物がある？どんな回り方をする？どうしたら回る？

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
5歳児が回ることに興味関心を持ち、様々な物を回していた。回る物、回せる物、どんな回り方があるのか等への興味関心が広がると良いと思いこのテーマにした。

2. 活動スケジュール

10月に保育園内を回り、回るものを探した。
11月1回、12月2回、1月2回の計5回、講師を招き、回るをテーマに取り組んだ。
紙皿や紙コップ、色画用紙を使い、各々工夫して製作し、どのようにしたらよく回るのかを探究していた。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
2グループまたは、3グループで行ない、メンバーは固定しなかった。1グループ25分で交代した。
場所はホール、製作する物により、巧技台などを用意した。
素材は紙皿、紙コップ、色画用紙、ペットボトルキャップ、マジック、のり、シール、セロテープ

南砂第三保育園

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

それぞれの素材だけで回してみることから始まり、新たな素材を足して、こども自身がどう使うかを見守りながら製作を進めた。製作したものを各々が回す。うまく回らなかった時は自分で工夫する。を繰り返しながら力加減、高さ、飛ばし方などを変えてみることで回る様子を観察し、できたことを喜ぶと共にさらに回る工夫を試みていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

活動の様子を見守り、うまくいかない様子が見られた時は声を掛け、どうしたいのかを聞いて手伝う程度でこども自身が自分で行えるような関わり方をした。

こどもたちは楽しんで製作に取り掛かり、さらに工夫していた。どのようにしたらよく回るかを探求していた。毎回、とても楽しみにしていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

「なんだろう?」「どうして?」と疑問に思うだけに留まらず、そこから考えたり、試すことを楽しんでいた。最初の活動では、周囲の友達の様子を見ながら参加していた子も、自分で考えたり工夫する姿が見られるようになった。すくわくプログラムの回を重ねていく中で、「なんだろう?」という好奇心、夢中になって取り組む探求心が育ってきていると感じた。『考える、夢中になるって楽しい!』という経験は、これからの活動にもいかされていくように思った。

南砂第五保育園

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	南砂第五保育園
施設所在地	江東区南砂2-3-6-103
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

魅力的な園庭遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

南砂第五保育園は江東区立保育園唯一の芝生がある園庭が自慢の一つです。保育園は乳児専門園であり、0歳クラスから2歳クラスまでしかありませんが、どのクラスのこどもたちもこの園庭で遊ぶことが大好きです。こどもたちの興味や関心、探索行動が広がるよう魅力的な園庭となるためには何ができるだろうと考えました。

2. 活動スケジュール

- ① 6年9月「本物の昆虫と出会う」夏保育で虫探し体験を行った2歳児クラス絵本の中でみる昆虫と触れ合うことができたなら、こどもたちはどんな姿をみせるだろうかと計画しました。
- ② 6年10月「制限されないあそび保障」食事の時間があり、大好きな園庭遊びも時間が来ると部屋に戻るよう促されます。着替えや排泄の時間（食事を迎えるまでの準備の時間）をこども自身に任せ、ぎりぎりの時間まで遊びを保障されたら、こどもはどんな姿をみせるだろうかと計画しました。
- ③ 6年12月「自由な場所での砂遊び」砂遊びは固定された砂場で、は大人の考え。あっちにもこっちにも砂場があったらこどもはどう活動するかと思い計画しました
- ④ 7年2月「自己選択できる園庭環境」園庭用具はいつも保育士が設定しています。こどもの手が届く場所に用具を設定したら、こどもはどう遊びだすのかと思い計画しました。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・近隣園に協力してもらい飼育している昆虫を貸し出してもらう
- ・砂場ケースとなるものを購入、大きさや高さが選べる環境を準備する
- ・こどもの手が届く場所に遊具や用具を置いてみる（棚やかごを購入）

南砂第五保育園

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ① 2歳児クラス対象：ホールで少人数で行う
- ② 2歳児クラス対象：担任以外の職員が+保育応援をして行う
- ③ 立って遊べる砂場ケース、0歳児の手が届くミニタライの砂場環境を設定して行う
- ④ こどもの目の高さに用具を置いてみる 遊びたいものを自由に選択できる環境設定

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- (活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
- ① なにこれ、すごい、感動はもちろんのこと匂いや昆虫の動きにも興味を持っていた
 - ② 残るこどもが少なくなりより一層大きな声で自分の遊びを展開する
次はあれしようとリーダー性を発揮してともだちを遊びに誘う
周りを見渡し「みんないないの?」と部屋に戻ることを意識する子様々であった
 - ③ 立って砂遊びができることで台所にみたてるのか料理作りが盛んであった
 - ④ こどもならではの遊具の組み合わせが楽しかった



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ① 本物に触れることでの興味関心が深くなり活動後の遊びの中でも興味関心が広がった
- ② いつもなら入室に抵抗を示す子もたっぷり遊びこむことで満足し「もうご飯できてるよ」の声掛けで素直に部屋に戻ることができた 満足するための時間が必要であることに改めて気づいた
- ③ おもしろそうと思える環境づくりが興味関心につながることを体験できた
- ④ 遊具や用具を自由にだせるということは、片付けの労力が増えることにもなったが、こどもたちの満足した顔が印象的であった やりたいことが思うままにできる幸せを感じた

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	城東保育園
施設所在地	江東区南砂7-9-11
法人名	江東区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ものづくり

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
クラスの中で、絵を描いたり、イメージを表現しようとする子が増えてきた中で、いろいろな素材を用いてより自由に好きなイメージを表現することを、クラスのこども皆が楽しめると思ったため。

2. 活動スケジュール

11月
12月
12月25日 講師を招いた一斉活動

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
製作ワゴン2台 (ハサミ、テープ類、マジックペン、毛糸、スズランテープ、折り紙、リボン、カラー段ボール、ペットボトルキャップ、のり、ボンド、カラービニール、モールを積んでいる)
素材BOX (空き箱、古紙、段ボールなどを入れておく箱。ここから自由にとって使えるようにしている。)
玄関に作品を飾るコーナー
その他、保育士が見守りながら段ボールカッターも使えるようにしていた。

4. 探究活動の実践

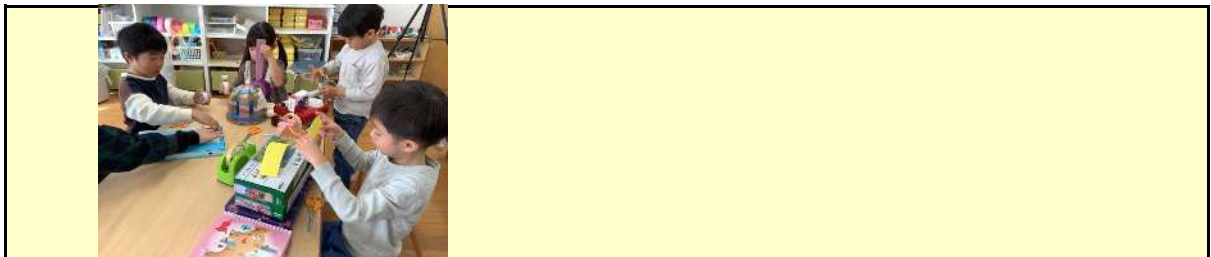
<活動の内容>

11月12月はクラスを4グループに分けた少人数ずつ行い、空き箱などの素材、ペンやテープなどの文具も含め自由に使える環境で活動を行った。12月25日は講師と一緒にものづくりを楽しみ、友だち同士コミュニケーションをとりながら自分の好きなもの、好きなイメージを表現し形にしていっていった。また日頃の自由遊びでもものづくりが発展しており、『こんな遊びがしたい』というきっかけからその遊びに必要な遊具やものを自分で製作する様子も見られた。すくわくプログラムとして計画・実施したのは11月12月が主だったが、年度末にかけて、発想や技術が経験として蓄積されていることも感じる事ができた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

少人数ずつ活動を活動を行うことで、自分の気持ちを大きく表現できない子も、ものづくりの中で気づいたことや、楽しさを言葉にしていた。グループは敢えて普段一緒に遊んでいることが少ない子同士を同じにしたところ、活動を通して気持ちを伝え合い、作っているものは違うもののその場で一緒に好きなものを表現することを楽しんでいるようだった。少人数であることで保育士も、普段は聞き逃してしまう、見逃してしまうこどもの発見や喜びに気づき、受け止め共感することができた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

活動の中で、製作・表現活動が得意な子に焦点を当てて考えたり、伸ばそうとすることが多かった。しかし得意な子以上に、苦手な子や表現が少ない子に注目して援助し、小さなきっかけからその子のやる気や自信を伸ばしていくことが大切だと担任間の反省で気づいた。また、素材を大胆に、いくつも使うこどもの様子に思わず「ちょっとずつ」など制限しそうになったが、ぐっとこらえて自由にこどもの好きな量を使えるようにしたことで、ものづくりに対するこどもの意欲や技術が伸びていった。このことも担任間で共有し、援助や声かけに違いが生まれないようにすることが重要である。